公表日　　平成２３年９月１日
最新更新日　平成２３年９月１日

授 業 計 画

平成23年度

Syllabus 2011

短期大学部　保 育 科 第 一 部

学科教育科目

兵庫大学短期大学部　教育情報

保育科第一部

学科教育科目

保育科第一部の教育目標

保育科第一部は、学則に掲げられた建学の精神、教育研究上の目的に基づき、学科の教育目標を次のように定めている。

＜豊かな人間性を基盤とする資質の高い保育者の養成＞

この目標を達成するため、次の二つを学科教育の方針としている。

・保育者にとって必要な豊かな情操、創造力、向上心を培うこと
・子どもを理解し、子どもの心身の発達を援助する専門的能力を養うこと

本学科に学ぶ学生は、これらの方針に沿って勉学に励み、2 年間の学生生活を通して

・「保育とは何か」を理解すること
・「保育者としての専門性」を身につけること

を追求してもらいたい。

そのためには、保育に関する専門的知識と技能を修得するだけでなく、自己をみつめ自己を高めること、真理追究の姿勢を持ち主体的に学びとること、広い視野を持ち豊かな教養・感性を養うことが必要である。

本学科においては、教育課程の中から所定の単位を修得することにより、次の免許・資格を取得することができる。

・幼稚園教諭二種免許
・保育士資格

これらの免許・資格を取得しようとする人には、社会的責務として、子どもの権利を尊重する「よき保育者」となることが求められている。

そのために、学生は、保育者として必要な資質の向上に努めなければならない。

卒業後の進路としては、保育所、保育所以外の児童福祉施設、幼稚園、各種企業など多方面にわたっている。

なお、本学科の教育課程の履修にあたっては、所定の条件があるので、各自注意されたい。

■平成 23 年度入学者■

Ⅰ　教育課程

授業科目の構成　（詳細は学則参照）

①基礎・教養科目　　②学科教育科目　　に大別される。

Ⅱ　卒業所要単位

保育科第一部においては、本学に 2 年以上（4 年以内）在学し、62 単位以上を修得した者は卒業資格が取得でき、「短期大学士」の学位が授与される。

卒業のために最低限必要な単位の内容は、次のとおりである。

科目区分	単位数	最低単位数
①基礎・教養科目	6 単位以上	62 単位以上
②学科教育科目	48 単位以上	

残り 8 単位は、 基礎・教養科目、学科教育科目のいずれで修得しても可。

＊詳細

科目区分	単位数	内容	単位数
①基礎・教養科目	6 単位以上	「日本語（読解と表現）」 「英語」 「コンピュータ演習」	左記の 3 科目の中から 2 科目 4 単位以上
		「宗教と人生」	2 単位
		選択科目	
②学科教育科目	48 単位以上	必修科目　　9 科目	15 単位
		選択科目	33 単位以上

Ⅲ　履修上の注意事項

ア．履修にあたっては、上記の卒業所要単位に留意し、自らの責任のもとに履修計画をたて、履修の手続きを行うとともに、普段の授業においても、主体的に学ぶ姿勢を貫かねばならない。

イ．保育科第一部において、幼稚園教諭二種免許および保育士資格を取得しようとする学生は、本学に2年以上（4年以内）在学し、卒業所要単位を修得し、かつ、それぞれ次に示す必要な単位を修得しなければならない。

幼稚園教諭二種免許	基礎科目「英語」	2単位
	基礎科目「コンピュータ演習」	2単位
	教養科目「日本国憲法」	2単位
	教養科目「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」	2単位
	別表Ａに示す最低単位数	

※　「英語」「コンピュータ演習」「日本国憲法」「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」の4科目は、「教育職員免許法」第5条別表第1備考第四号および「教育職員免許法施行規則」第66条の6により、修得することが定められている。

※　詳細については別表Ａを参照し、履修のうえで注意すること。

※　幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位を修得した学生には、免許状申請に係る所定の手続きを経たのち、兵庫県教育委員会から免許状が授与される。

保育士資格	基礎・教養科目 ※1	8単位以上
	必修科目	58単位
	選択必修科目	9単位以上

※1　基礎・教養科目については、外国語2単位、体育に関する講義及び実技それぞれ1単位を含む8単位以上の履修が定められている。本学では、「英語」2単位、「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」2単位、「健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）」または「健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）」1単位、計5単位を含む8単位以上の修得が必要である。

※　必修科目、選択必修科目の詳細については、別表Ｂを参照し、履修等注意すること。

※　保育士資格取得に必要な単位を修得した学生には、指定保育士養成施設である本学から指定保育士養成施設卒業証明書が交付される。

※　児童福祉法の改正（2003年11月29日施行）により、保育士資格の法定化が図られた。保育士資格を名称独占資格に改め、併せて守秘義務、登録等に関する規定が整備された。
指定保育士養成施設で所定の単位を修得した卒業者は、保育士となる資格を有する者となり、保育士となる資格を有する者が保育士となるためには、都道府県に備えられた保育士登録簿に登録しなければならない。
なお、保育士資格登録の申請は、保育士登録指定保育士養成施設（本学）側が、一括して行う。

ウ．幼稚園教諭あるいは保育所その他の児童福祉施設の保育士（本学では、併せて保育者と通称している）をめざすためには、選択科目を積極的に履修し、より広く深い専門的知識・技能を修得することによって、未来の保育者としての自己形成に努めることが望まれる。

エ．免許・資格に必要な教育実習、保育実習は、直接子どもに接する学習であるから、学生は、所定の手続きを滞りなく済ませていると同時に、学業成績、健康状態等において一定の条件を満たしていることが必要である。

オ．その他、履修に関して特に注意すべき事項は、履修指導時に説明する。

別表Ａ　幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位

【平成 23 年度入学者】

区分	免許法施行規則に規定された科目名		保育科第一部で開設している授業科目名	開設単位数 必修	開設単位数 選択	最低修得単位数	
教科に関する科目	国語		日本語（読解と表現）		2	4	
	算数		算数		2		
	生活		生活概論		2		
	音楽		音楽教育Ａ	1			
			音楽教育Ｂ		◆1		
			器楽Ａ		◆1		
			器楽Ｂ		◆1		
	図画工作		造形Ａ	1			
			造形Ｂ		◆1		
	体育		幼児体育Ａ	1			
			幼児体育Ｂ		◆ 1		
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	教師・保育者論	2		2	27
	教職の基本理念に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		4	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	教育心理学		◆2		
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育制度論		◆2		
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	保育課程総論	2		12	
		・保育内容の指導法	保育内容総論		◆1		
			保育内容・健康		◆2		
			保育内容・人間関係		◆2		
			保育内容・環境		◆2		
			保育内容・言葉		◆2		
			保育内容・表現Ａ		◆2		
			保育内容・表現Ｂ		◆2		
		・教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育方法論		◆2		
	生徒指導教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	児童心理学		◆2	2	
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談		◆2		
	教育実習		教育実習		◆5	5	
	教職実践演習		保育・教職実践演習（幼稚園）		◆2	2	
			合　計				31

（備考）

（ア）幼稚園教諭二種免許を取得するには、「基礎資格」（短期大学卒業者に係る短期大学士の学位を有すること）を得ると共に、最低修得単位数として教科に関する科目 4 単位、教職に関する科目 27 単位、合計 31 単位を修得しなければならない。

（イ）上記の表の最低修得単位数については、卒業資格に必要な必修科目のほかに、別表Ａの「開設単位数」欄で◆印を付している科目のすべてを履修しなければならない。

（ウ）別表Ａに示す最低単位は、「教育職員免許法」第 5 条別表第 1（1949 年 5 月 31 日法律第 147 号、最終改正 2003 年法律第 117 号）および「同法施行規則」第 5 条、第 6 条（1954 年 10 月 27 日文部省令第 26 号、最終改正 2002 年文科令第 3、31 号）に規定されている。

別表Ｂ　保育士資格取得に必要な単位

【平成 23 年度入学者】（必修科目）

系列	児童福祉法施行規則告示別表第１による教科目		指定単位数	保育科第一部で開設している授業科目名		開設単位数		備考
	教科目	授業形態	必修	授業科目	授業形態	必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理Ａ	講義	2		全科目必修
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義		●2	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		
	相談援助	演習	1	相談援助	演習		●1	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義		●2	
	保育者論	講義	2	教師・保育者論	講義	2		
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	講義	2	保育の心理学Ⅰ	講義	2		
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	保育の心理学Ⅱ	演習		●1	
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	子どもの保健ⅠＡ	講義		●2	
				子どもの保健ⅠＢ	講義		●2	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	子どもの保健Ⅱ	演習		●1	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養Ａ	演習		●1	
				子どもの食と栄養Ｂ	演習		●1	
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義		●2	
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2		
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習		●1	
	保育内容演習	演習	5	保育内容・健康	演習		●2	
				保育内容・人間関係	演習		●2	
				保育内容・環境	演習		●2	
				保育内容・言葉	演習		●2	
				保育内容・表現Ａ	演習		●2	
				保育内容・表現Ｂ	演習		●2	
	乳児保育	演習	2	乳児保育Ａ	演習		●1	
				乳児保育Ｂ	演習		●1	
	障害児保育	演習	2	障害児保育Ａ	演習		●1	
				障害児保育Ｂ	演習		●1	
	社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習		●1	
	保育相談支援	演習	1	保育相談支援	演習		●1	
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	音楽教育Ａ	演習	1		
				器楽Ａ	演習		●1	
				造形Ａ	演習	1		
				幼児体育Ａ	演習	1		
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ	実習		●4	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	演習		●2	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		●2	
合　計			51	合　計		58		

【平成 23 年度入学者】（選択必修科目）

系列	児童福祉法施行規則告示別表第２による教科目		指定単位数	保育科第一部で開設している授業科目名		開設単位数		備考
	教科目	授業形態	選択必修	授業科目	授業形態	必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目			15単位以上開設	保育原理Ｂ	講義		2	6単位以上選択必修
保育の対象の理解に関する科目				児童心理学	講義		2	
				青年心理学	講義		2	
				臨床心理学	演習		2	
				教育相談	講義		2	
保育の内容・方法に関する科目								
保育の表現技術	保育の表現技術	演習		音楽教育Ｂ	演習		1	
				音楽教育Ｃ	演習		1	
				音楽教育Ｄ	演習		1	
				器楽Ｂ	演習		1	
				造形Ｂ	演習		1	
				幼児体育Ｂ	演習		1	
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習		●2	2単位以上選択必修
				保育実習Ⅲ	実習		●2	
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	演習		●1	1単位以上選択必修
				保育実習指導Ⅲ	演習		●1	
合　計（開設単位数）			18単位以上	合　計		22単位		9単位以上

（備考）

（ア）保育士資格必修科目については、卒業必修科目のほかに、別表Ｂの「開設単位数」欄で●印を付している科目のすべてを履修しなければならない。〔ただし、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」については（イ）参照〕

（イ）選択必修科目については、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」のうち２単位以上、「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」のうち１単位以上を含めて、9 単位以上を最低修得することとなっている。「保育実習Ⅱ」（2 単位）と「保育実習指導Ⅱ」（1 単位）を履修するか、「保育実習Ⅲ」〈２単位〉と「保育実習指導Ⅲ」〈１単位〉を履修するかを選択し、それ以外に、最低 6 単位を選択履修しなければならない。

選択必修科目は、卒業後の進路に応じて選択履修することが望ましい。詳しくは履修指導時に説明する。

（ウ）別表Ｂに示す指定単位は、「児童福祉法施行規則第 6 条の 2 第 1 項第 3 号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」（2010 年 7 月 13 日厚生労働省告示第 278 号）に規定されている。

■平成 22 年度入学者■

Ⅰ　教育課程

授業科目の構成　（詳細は学則参照）

①基礎・教養科目　　②学科教育科目　　に大別される。

Ⅱ　卒業所要単位

保育科第一部においては、本学に 2 年以上（4 年以内）在学し、62 単位以上を修得した者は卒業資格が取得でき、「短期大学士」の学位が授与される。

卒業のために最低限必要な単位の内容は、次のとおりである。

科目区分	単位数	最低単位数
①基礎・教養科目	6 単位以上	62 単位以上
②学科教育科目	48 単位以上	

残り 8 単位は、 基礎・教養科目、学科教育科目のいずれで修得しても可。

＊詳細

科目区分	単位数	内容	単位数
①基礎・教養科目	6 単位以上	「日本語（読解と表現）」 「英語」 「コンピュータ演習」	左記の 3 科目の中から 2 科目 4 単位以上
		「宗教と人生」	2 単位
		選択科目	
②学科教育科目	48 単位以上	必修科目　　9 科目	15 単位
		選択科目	33 単位以上

Ⅲ　履修上の注意事項

ア．履修にあたっては、上記の卒業所要単位に留意し、自らの責任のもとに履修計画をたて、履修の手続きを行うとともに、普段の授業においても、主体的に学ぶ姿勢を貫かねばならない。

イ．保育科第一部において、幼稚園教諭二種免許および保育士資格を取得しようとする学生は、本学に 2 年以上（4 年以内）在学し、卒業所要単位を修得し、かつ、それぞれ次に示す必要な単位を修得しなければならない。

幼稚園教諭二種免許	基礎科目「英語」	2 単位
	基礎科目「コンピュータ演習」	2 単位
	教養科目「日本国憲法」	2 単位
	教養科目「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」	2 単位
	別表Ａに示す最低単位数	

※　「英語」「コンピュータ演習」「日本国憲法」「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」の 4 科目は、「教育職員免許法」第 5 条別表第 1 備考第四号および「教育職員免許法施行規則」第 66 条の 6 により、修得することが定められている。

※　詳細については別表Ａを参照し、履修のうえで注意すること。

※　幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位を修得した学生には、免許状申請に係る所定の手続きを経たのち、兵庫県教育委員会から免許状が授与される。

保育士資格	基礎・教養科目 ※1	10 単位以上
	必修科目	50 単位
	選択必修科目	10 単位以上

※1　基礎・教養科目については、外国語 2 単位、体育に関する講義及び実技それぞれ 1 単位を含む 10 単位以上の履修が定められている。本学では、「英語」2 単位、「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」2 単位、「健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）」または「健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）」1 単位、計 5 単位を含む 10 単位以上の修得が必要である。

※　必修科目、選択必修科目の詳細については、別表Ｂを参照し、履修等注意すること。

※　保育士資格取得に必要な単位を修得した学生には、指定保育士養成施設である本学から指定保育士養成施設卒業証明書が交付される。

※　児童福祉法の改正（2003 年 11 月 29 日施行）により、保育士資格の法定化が図られた。保育士資格を名称独占資格に改め、併せて守秘義務、登録等に関する規定が整備された。
指定保育士養成施設で所定の単位を修得した卒業者は、保育士となる資格を有する者となり、保育士となる資格を有する者が保育士となるためには、都道府県に備えられた保育士登録簿に登録しなければならない。
なお、保育士資格登録の申請は、保育士登録指定保育士養成施設（本学）側が、一括して行う。

ウ．幼稚園教諭あるいは保育所その他の児童福祉施設の保育士（本学では、併せて保育者と通称している）をめざすためには、選択科目を積極的に履修し、より広く深い専門的知識・技能を修得することによって、未来の保育者としての自己形成に努めることが望まれる。

エ．免許・資格に必要な教育実習、保育実習は、直接子どもに接する学習であるから、学生は、所定の手続きを滞りなく済ませていると同時に、学業成績、健康状態等において一定の条件を満たしていることが必要である。

オ．その他、履修に関して特に注意すべき事項は、履修指導時に説明する。

別表Ａ　幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位

【平成 22 年度入学者】

		免許法施行規則に規定された科目名	保育科第一部で開設している授業科目名	開設単位数 必修	開設単位数 選択	最低修得単位数	
教科に関する科目		国　語	日本語（読解と表現）		2	4	4
		算　数	算数		2		
		生　活	生活概論		2		
		音　楽	音楽教育Ａ	1			
			音楽教育Ｂ		◆1		
			器楽Ａ		◆1		
			器楽Ｂ		◆1		
		図　画　工　作	造形Ａ	1			
			造形Ｂ		◆1		
		体　育	幼児体育Ａ	1			
			幼児体育Ｂ		◆1		
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	教師論	2		2	27
	教職の基本理念に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		4	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	発達心理学	2			
			教育心理学		2		
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育制度論		◆2		
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	保育課程総論	2		12	
		・保育内容の指導法	保育内容・健康		◆2		
			保育内容・人間関係		◆2		
			保育内容・環境		◆2		
			保育内容・言葉		◆2		
			保育内容・表現Ⅰ		◆2		
			保育内容・表現Ⅱ		◆2		
		・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育方法論		◆2		
	進路指導等に関する科目 生徒指導教育相談及び	・幼児理解の理論及び方法	児童心理学		◆2	2	
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談		◆2		
	教育実習		教育実習		◆5	5	
	教職実践演習		保育・教職実践演習（幼稚園）		◆2	2	
			合計				31

（備考）

（ア）幼稚園教諭二種免許を取得するには、「基礎資格」（短期大学卒業者に係る短期大学士の学位を有すること）を得ると共に、最低修得単位数として教科に関する科目 4 単位、教職に関する科目 27 単位、合計 31 単位を修得しなければならない。

（イ）上記の表の最低修得単位数については、卒業資格に必要な必修科目のほかに、別表Ａの「開設単位数」欄で◆印を付している科目のすべてを履修しなければならない。

（ウ）別表Ａに示す最低単位は、「教育職員免許法」第 5 条別表第 1（1949 年 5 月 31 日法律第 147 号、最終改正 2003 年法律第 117 号）および「同法施行規則」第 5 条、第 6 条（1954 年 10 月 27 日文部省令第 26 号、最終改正 2002 年文科令第 3、31 号）に規定されている。

別表Ｂ　保育士資格取得に必要な単位

【平成 22 年度入学者】

児童福祉法施行規則に規定された科目名			授業形態	指定単位数 必修	指定単位数 選択	本学保育科第一部で開講している授業科目名	開設単位数 必修	開設単位数 選択
専門科目	保育の本質・目的の理解に関する科目	社会福祉	講義	2		社会福祉	2	
		社会福祉援助技術	演習	2		社会福祉援助技術		●2
		児童福祉	講義	2		児童福祉		●2
		保育原理	講義	4		保育原理ＩＡ	2	
						保育原理ＩＢ		●2
						保育原理Ⅱ		②
		養護原理	講義	2		養護原理Ⅰ		●2
						養護原理Ⅱ		②
		教育原理	講義	2		教育原理	2	
	保育の対象の理解に関する科目	発達心理学	講義	2		発達心理学	2	
						児童心理学		②
						青年心理学		②
		教育心理学	講義	2		教育心理学		●2
						臨床心理学		②
		小児保健	講義 実習	5		小児保健Ａ		●2
						小児保健Ｂ		●2
						小児保健実習		●1
		小児栄養	演習	2		小児栄養		●2
		精神保健	講義	2		精神保健		●2
		家族援助論	講義	2		家族援助論		●2
	保育の内容・方法の理解に関する科目	保育内容	演習	6		保育内容・健康		●2
						保育内容・人間関係		●2
						保育内容・環境		●2
						保育内容・言葉		●2
						保育内容・表現Ⅰ		●2
						保育内容・表現Ⅱ		●2
		乳児保育	演習	2		乳児保育Ⅰ		●2
						乳児保育Ⅱ		②
		障害児保育	演習	1		障害児保育		●1
		養護内容	演習	1		養護内容		●1
専門科目	基礎技能	基礎技能	演習	4		音楽教育Ａ	1	
						器楽Ａ		●1
						造形Ａ	1	
						幼児体育Ａ	1	
						音楽教育Ｂ		①
						音楽教育Ｃ		①
						音楽教育Ｄ		①
						器楽Ｂ		①
						造形Ｂ		①
						幼児体育Ｂ		①
	保育実習	保育実習	実習	5		保育実習Ⅰ		●5
		保育実習Ⅱ	実習		(2)	保育実習Ⅱ		●②
		保育実習Ⅲ	実習		(2)	保育実習Ⅲ		●②
	総合演習	総合演習	演習	2		保育・教職実践演習（幼稚園）		●2
合計				50	10以上		11	67

（備考）

（ア）保育士資格必修科目については、卒業必修科目のほかに、別表Ｂの「開設単位数」欄で●印を付している科目のすべてを履修しなければならない。〔ただし、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」については（イ）参照〕

（イ）選択必修科目については、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」のうち 2 単位以上を含めて、10 単位以上を最低修得することとなっている。本学においては、「保育実習Ⅱ」は保育士資格必修科目の「保育実習Ⅰ」5 単位と同時修得する学習システムをとっているので、別表Ｂの「開設単位数」欄の○印で囲んだ科目から、最低 8 単位を選択履修しなければならない。（なお、希望者は「保育実習Ⅲ」をさらに履修することが可能であり、その場合○印科目 2 単位として算入できる。）選択必修科目は、卒業後の進路に応じて選択履修することが望ましい。詳しくは履修説明時に説明する。

（ウ）別表Ｂに示す指定単位は、「児童福祉法施行規則第 6 条の 2 第 1 項第 3 号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」（2000 年 5 月 23 日厚生労働省告示第 198 号）に規定されている。

平成 23 年度
(2011 年度)
入学者

平成23年度（2011年度）　学年暦〔Ⅰ期〕

保育科第一部1年生

23年	日		月		火		水		木		金		土	
4月											1		2	
	3	入学式	4		5		6		7		8	① Ⅰ期授業開始	9	
	10		11	①	12	①	13	①	14	①	15	②	16	
	17		18	②	19	②	20	②	21	②	22	③	23	
	24		25	③	26	③	27	③	28	③	29	昭和の日	30	
5月	1		2	④	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	④	7	
	8		9	⑤	10	④	11	④	12	④	13	⑤	14	
	15		16	⑥	17	⑤	18	⑤	19	⑤	20	⑥	21	
	22		23	⑦	24	⑥	25	⑥	26	⑥	27	⑦	28	
	29		30	⑧	31	⑦	1	⑦	2	⑦	3	⑧	4	
6月	5		6	⑨	7	⑧	8	⑧	9	⑧	10	創立記念日	11	
	12		13	⑩	14	⑨	15	⑨	16	⑨	17	⑨	18	オープンキャンパス
	19		20	⑪	21	⑩	22	⑩	23	⑩	24	⑩	25	
	26		27	⑫	28	⑪	29	⑪	30	⑪	1	⑪	2	
7月	3		4	⑬	5	⑫	6	⑫	7	⑫	8	⑫	9	
	10		11	⑭	12	⑬	13	⑬	14	⑬	15	⑬	16	
	17		18	海の日	19	⑭	20	⑭	21	⑭	22	⑭	23	オープンキャンパス
	24	オープンキャンパス	25	⑮	26	⑮	27	⑮	28	⑮	29	⑮	30	予備日
	31		1	補講日	2	補講日	3	補講日	4	補講日	5	補講日	6	オープンキャンパス
8月	7	オープンキャンパス	8		9		10		11		12		13	
	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	オープンキャンパス
	28	オープンキャンパス	29		30		31		1		2		3	
9月	4		5		6		7		8		9		10	オープンキャンパス
	11		12		13		15		15		16		17	

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

平成23年度（2011年度）　学年暦　〔Ⅱ期〕

保育科第一部1年生

23年	日		月		火		水		木		金		土	
9月	11		12		13		14		15	① Ⅱ期授業開始	16	①	17	① 月曜日科目授業日
	18		19	敬老の日	20	①	21	①	22	②	23	秋分の日	24	② 金曜日科目授業日
	25		26	保育所見学観察実習	27	保育所見学観察実習	28	保育所見学観察実習	29	保育所見学観察実習	30	保育所見学観察実習	1	保育所見学観察実習
10月	2		3	保育所見学観察実習	4	保育所見学観察実習	5	保育所見学観察実習	6	保育所見学観察実習	7	保育所見学観察実習	8	保育所見学観察実習
	9		10	体育の日	11	②	12	②	13	③	14	③	15	② 月曜日科目授業日
	16		17	③	18	③	19	③	20	④	21	④	22	
	23	入学試験実施	24	④	25	④	26	④	27	⑤	28	⑤	29	⑤ 水曜日科目授業日
	30		31	⑤	1	⑤	2	⑥	3	文化の日	4	⑥	5	入学試験実施
11月	6	入学試験実施	7	⑥	8	⑥	9	⑦	10	⑥	11	大学祭準備（予定）	12	大学祭（予定）
	13	大学祭（予定）	14	幼稚園見学観察実習 大学祭後片付（予定）	15	幼稚園見学観察実習	16	幼稚園見学観察実習	17	幼稚園見学観察実習	18	幼稚園見学観察実習	19	幼稚園見学観察実習
	20		21	⑦	22	⑦	23	勤労感謝の日	24	⑦	25	⑦	26	⑧ 金曜日科目授業日
	27		28	⑧	29	⑧	30	⑧	1	⑧	2	⑨	3	⑨ 木曜日科目授業日
12月	4		5	⑨	6	⑨	7	⑨	8	⑩	9	⑩	10	⑩ 月曜日科目授業日
	11		12	⑪	13	⑩	14	⑩	15	⑪	16	⑪	17	⑪ 水曜日科目授業日
	18		19	⑫	20	⑪	21	⑫	22	⑫	23	天皇誕生日	24	
	25		26	⑬	27	⑫	28		29		30		31	
23年 1月	1	元旦	2	振替休日	3		4		5		6	⑫	7	⑬ 金曜日科目授業日
	8		9	成人の日	10	⑬	11	⑬	12	⑬	13	センター試験準備	14	センター試験
	15	センター試験	16	⑭	17	⑭	18	⑭	19	⑭	20	⑭	21	
	22		23	⑮	24	⑮	25	⑮	26	⑮	27	⑮	28	予備日
	29		30	施設観察参加実習	31	施設観察参加実習	1	施設観察参加実習	2	施設観察参加実習	3	施設観察参加実習	4	施設観察参加実習 入学試験実施
2月	5	入学試験実施	6	施設観察参加実習	7	施設観察参加実習	8	施設観察参加実習	9	施設観察参加実習	10	施設観察参加実習	11	建国記念の日
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20	施設観察参加実習 （～3/31）	21		22		23		24		25	
	26		27		28		29		1		2		3	
3月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19		20	春分の日	21		22		23	卒業式	24	
	25		26		27		28		29		30		31	

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

カリキュラム年次配当表

保育科第一部　平成23年度（2011年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当（数字は週当り授業時間）				備考	ページ
							1年		2年			
			必修	選択			Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習		2	◇		2				☆	基礎・教養科目編参照
	英語	演習		2	◆	●	2				☆	
	コンピュータ演習	演習		2	◆		2				☆	
教養科目	宗教と人生	講義	2				2					
	文学	講義		2				2				
	色彩学	講義		2			2					
	日本国憲法	講義		2	◆			2				
	ジェンダー論	講義		2			2					
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2	◆	●		②		②		
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1	◇	●	②		②		☆☆	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1				②		②	☆☆	

（注意）◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。
●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。
※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。
※備考欄の☆☆は、学則第23条第1項第3号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

保育科第一部　平成23年度（2011年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	備考	ページ
学科目	音楽教育Ａ	演習	1				2					18
	音楽教育Ｂ	演習		1	◆	○		2				19
	音楽教育Ｃ	演習		1		○			2			
	音楽教育Ｄ	演習		1		○				2		
	器楽Ａ	演習		1	◆	●	2					20
	器楽Ｂ	演習		1	◆	○		2				21
	造形Ａ	演習	1				2					22～25
	造形Ｂ	演習		1	◆	○		2				26～29
	幼児体育Ａ	演習	1				2					30
	幼児体育Ｂ	演習		1	◆	○		2				31
	算数	講義		2	◇						不開講	
	生活概論	講義		2	◇						不開講	
	子どもの保健ⅠＡ	講義		2		●	2					32
	子どもの保健ⅠＢ	講義		2		●		2				33
	子どもの保健Ⅱ	演習		1		●			2			
	子どもの食と栄養Ａ	演習		1		●			2			
	子どもの食と栄養Ｂ	演習		1		●				2		
	家庭支援論	講義		2		●				2		
	社会福祉	講義	2						2			
	相談援助	演習		1		●				2		
	児童家庭福祉	講義		2		●	2					34
	教育原理	講義	2						2			
	保育原理Ａ	講義	2				2					35
	保育原理Ｂ	講義		2		○				2		
	社会的養護	講義		2		●		2				36
	保育相談支援	演習		1		●				2		
	教育実習	実習		5	◆			5				37, 38
	保育実習Ⅰ	実習		4		●	4					39
	保育実習指導Ⅰ	演習		2		●	2					40, 41
	保育実習Ⅱ	実習		2		○			2			
	保育実習指導Ⅱ	演習		1		○			1			
	保育実習Ⅲ	実習		2		○			2			
	保育実習指導Ⅲ	演習		1		○			1			
	保育の心理学Ⅰ	講義	2				2					42
	保育の心理学Ⅱ	演習		1		●			2			
	教育心理学	講義		2	◆				2			
	児童心理学	講義		2	◆	○		2				43
	青年心理学	講義		2		○				2		
	臨床心理学	演習		2		○		2			☆	44
	教育制度論	講義		2	◆				2			
	教師・保育者論	講義	2							2		
	保育課程総論	講義	2				2					45
	保育内容総論	演習		1	◆	●	2					46
	保育内容・健康	演習		2	◆	●			2		☆	
	保育内容・人間関係	演習		2	◆	●		2			☆	47
	保育内容・環境	演習		2	◆	●			2		☆	
	保育内容・言葉	演習		2	◆	●		2			☆	48, 49
	保育内容・表現Ａ	演習		2	◆	●			2		☆	
	保育内容・表現Ｂ	演習		2	◆	●		2			☆	50
	保育方法論	講義		2	◆			2				51
	社会的養護内容	演習		1		●			2			
	乳児保育Ａ	演習		1		●	2					52
	乳児保育Ｂ	演習		1		●				2		
	障害児保育Ａ	演習		1		●		2				53
	障害児保育Ｂ	演習		1		●				2		
	教育相談	講義		2	◆	○				2		
	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		2	◆	●				2	☆	

（注意）◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。
●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科 目 名	音楽教育Ａ				
担当者名	吉良　武志				
授業方法	演習	単位・必選	１・必	開講年次・開講期	１年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》

こどもたちと一緒に歌ったり楽器を弾いたりして、音楽の楽しい感動を共有することは、とても大切なことです。保育者にとって必要な音楽に関する基本的な知識の獲得や音楽的技能の養成を目標とします。ＭＬ（ミュージック・ラボラトリー）を利用したこどもの歌の弾き歌い練習をはじめ、アンサンブルの学習、ソルフェージュの指導、鑑賞などを通して音楽的資質を高め、さらに、楽譜の演奏にとどまらず、コードネームによる伴奏法や即興演奏能力も身につけることを期待します。また、鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器の奏法にも習熟し、こどもたちと一緒に音楽の楽しさを味わえる保育者を目指してほしいものです。

《授業の到達目標》

Ｉ期の授業では、音楽教育に関する知識、及び実践的な音楽的技能の養成に取り組みます。
こどもの発達（特に音楽的能力の発達）に関する知識、及び保育内容「表現」において音楽の担う重要性をまず理解します。
○こどもたちの前で手遊び歌や指遊び歌をうまく歌え、表現できる。
○こどもたちと一緒にピアノを弾きながらうまく歌える。
○コードネームによってこどもたちの歌に簡単な即興伴奏ができる。
○こどもたちと鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器による合奏ができる。また、その指導ができる。
○紙芝居やペープサート、人形劇などに音楽を効果的に活用できる。
○身近な自然やものの音、人の声などに親しみ、音楽を用いた保育へ導入することができる。
○音楽を用いた保育への導入に際して、こどもたちに興味のあるお話ができる。

《テキスト》

授業の中で、適宜指示します。また、必要に応じてプリント教材を配布します。

《参考文献》

授業の中で、適宜紹介します。図書館等で一読されることを望みます。

《成績評価の方法》

グループ発表やピアノの弾き歌い発表の内容（50%）、授業のまとめやレポート等の提出物（30%）、そして、実技を伴った授業内容ですので、出席状況等に見られる学習に取り組む姿勢（20%）で評価します。

《授業時間外学習》

音楽に関わる基本的な技能の上達には、毎日の反復練習と各自の熱意がとても大切です。何よりも音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう学習に励むことを期待します。多くのこどもの歌に触れ、弾き歌い曲や得意な曲のレパートリーも増やしましょう。最終週には、グループによる音楽を活用した紙芝居、ペープサートなどの発表をしますので、早い段階から、内容の検討、練習をしておいて下さい。

《備考》

・単に知識を得ることにとどまらず、実際に歌い、演奏し、動くことを通して、どのようにしてこどもたちと音楽の楽しい感動体験を共有すればいいのか学びましょう。
・ＭＬを利用した弾き歌いの練習の際には、演奏技能とともに、表情豊かな表現やソルフェージュ力の向上なども目指しましょう。
・学習内容の進捗状況により、授業計画が前後する場合もあります。
・楽器などの取り扱いには細心の注意を払い、また、清潔にするよう心がけましょう。
・毎日の練習がとても大切です。休日にも励んで下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	受講に際して、本授業の内容や留意点、準備物などの徹底。グループでの音楽劇等の発表を予告。 保育における音楽活動の意義。保育への導入としての手遊び歌（指遊び歌を含む）を紹介、練習する。
第 ２ 週	手遊び歌の教育的重要性を認識する。ピアノの伴奏練習も含め、いくつかの歌を紹介、指導、練習する。
第 ３ 週	コードネームによるピアノ伴奏の概説。初歩的なコードネームを理解する。各自の音楽的到達度に合わせた練習。
第 ４ 週	こどもの音楽的発達と音楽指導法についての理解を深める。保育内容「表現」との関連にも言及。
第 ５ 週	こどもの楽器遊び。楽器との出合い、手遊び歌から楽器遊びへ。鍵盤ハーモニカの指導（メロディー模奏）。
第 ６ 週	コードネームによるピアノ伴奏法。ハ長調の２コード（じゃんけん遊び他）、ト長調の２コード（糸まきまき他）。
第 ７ 週	実習等における部分保育を想定して、手遊び歌の歌唱、動き、ピアノ伴奏を練習し、指導案を考える。
第 ８ 週	幼児音楽教育の変遷、唱歌遊戯から童謡の誕生を概観する。歌い継がれた多くの文部省唱歌、童謡を取り上げる。
第 ９ 週	こどもの器楽合奏。さまざまな簡易楽器を使った合奏の練習と指導法を考察する。
第１０週	身近な音や人の声を使った「音遊び」の考察。それらを活用した保育の指導案を考える。
第１１週	即興的なピアノ伴奏に備え、音楽の基礎を深める。(少し複雑なコードネームなどの理解)
第１２週	お話と音楽。音楽活動への導入としてのお話（興味付け）。既存の「音楽人形劇」への導入のお話を創作する。
第１３週	鍵盤ハーモニカをはじめ、さまざまな楽器を練習し指導案を考え、その後、模擬保育のロールプレイをする。
第１４週	第１週に課したグループによる音楽を活用した紙芝居、ペープサート等の発表内容を仕上げ、その実施計画案を作成。
第１５週	各グループによる発表。その後、それぞれ全員でのディスカッション。　総まとめ（小レポートの作成）。

《学科教育科目》

科 目 名	音楽教育Ｂ				
担当者名	大串　和久				
授業方法	演習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
保育者の現場で求められる望ましい保育者となるためには、活動の結果や技術面ばかりに目を向けるのではなく、子どもが表現しようとする意欲を温かく受け止め、表現する喜びや感動する心を共有し育んでいくことがたいせつです。器楽Ａ、音楽教育Ａで培ってきた基礎知識や技術能力を再確認し、さらに磨きをかけて応用力を養い、子どもの歌の弾き歌いをはじめ、器楽合奏、和太鼓演奏、歌唱曲の作詞作曲を通じて幅広い音楽表現ができるよう進めていきます。

《授業の到達目標》
○コードネームを理解し、記されたコードネームを見ただけで容易に伴奏付けができることによって歌うことにも集中し、より多くの楽曲をのびのびと弾き歌いできる。
○器楽合奏や和太鼓演奏も自らが楽しんで積極的に参加することができる。
○自ら創り出す詩や旋律でオリジナルの歌唱曲をつくることができる。

《テキスト》
『３訂版　歌はともだち』（教育芸術社）
『おいしいってうれしいね　食育をテーマに歌う子どもの歌 43』（共同音楽出版社）1,300 円+税
その他、必要に応じて用意してもらいます。また、資料等は、その都度配布します。
※器楽Ａ、音楽教育Ａで使用したテキストは指示があったらすぐ使えるよう準備してください。

《参考文献》
『３訂版　歌はともだち 指導用伴奏集』（教育芸術社）

《成績評価の方法》
１．毎回、遅刻なく出席すること。欠席が 1/3 を超えたものは単位を認めない。
２．真面目な授業態度であること。
３．受講進度表を不備なく整理して記入すること。
４．授業中指示する課題提出及び小テストをクリアすること。
５．上記４＝50％と授業点（上記１～３及び備考１～４）＝50％の総合評価。

《授業時間外学習》
・予習
毎回、次の授業に向けての課題を指示しますから必要に応じて各自で練習してください。
・復習
毎回授業で扱ってきた曲を授業中に復習することにより着実にレパートリーを増やしていきます。授業中だけで復習の時間が不足と感じた時は個々で必要に応じて練習室や自宅等で練習してください。

《備考》
１．遅刻・早退は 20 分まで出席扱い（当該日の授業点を減点）とします。やむを得ず 20 分を超えそうな時は出席扱いとはなりませんが授業内容が毎回つながりをもちますので、そのような時でも必ず出席してください。
２．身だしなみとエチケット（つめ・髪・服装・靴等の清潔感）を心がけてください。
３．毎回受講進度表に必要事項を記入し指導者から必ずサインをもらってください。
４．講義室の使用上の注意事項を厳守し、授業終了時には次の使用者のために清潔を心がけてください。特に室内は飲食厳禁はもちろんこと、携帯電話の使用も厳禁（発覚の際は当該日の授業点を減点）です。
５．和太鼓演奏の練習用に、ラップの芯 2 本と小さめの段ボール箱（30cm 四方程度）が必要なので夏休み明けまでに各自でストックしておいてください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	『音楽教育 B』における授業内容の説明と指導者の紹介。 子どもの歌弾きうたいと歌うことについて(1)
第 2 週	子どもの歌弾きうたいと歌うことについて(2)
第 3 週	子どもの歌弾きうたいと歌うことについて(3)
第 4 週	子どもの歌弾きうたいと合奏について(1)
第 5 週	子どもの歌弾きうたいと合奏について(2)
第 6 週	子どもの歌弾きうたいと合奏について(3)
第 7 週	子どもの歌弾きうたいと即興も含めたリズム等の演奏について(1)
第 8 週	子どもの歌弾きうたいと即興も含めたリズム等の演奏について(2)
第 9 週	子どもの歌弾きうたいと即興も含めたリズム等の演奏について(3)
第１０週	子どもの歌弾きうたいとオリジナル曲創作について(1)
第１１週	子どもの歌弾きうたいとオリジナル曲創作について(2)
第１２週	子どもの歌弾きうたいとオリジナル曲創作について(3)
第１３週	子どもの歌弾きうたいと総合演習(1)
第１４週	子どもの歌弾きうたいと総合演習(2)
第１５週	Ⅱ期の総復習

《学科教育科目》

科 目 名	器楽Ａ				
担当者名	大串　和久・他				
授業方法	演習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	１年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》
保育者として望ましい姿勢を保ちつつ保育現場における応用力を身につけるための基礎技能を学びます。具体的には現場ですぐに役立つピアノとして「コード伴奏による弾き歌い」を簡易な段階から開始し、個々の到達度に合わせて個人レッスンと少人数のグループレッスンとを適宜おりまぜながら進めていきます。この態勢はⅡ期の『器楽Ｂ』へと全面的に引き継ぎつがれます。

《授業の到達目標》
○コードネームを理解し、記されたコードネームを見ただけで容易に伴奏付けができる。
○容易に伴奏付けができることによって歌うことにも集中し、楽曲をのびのびと弾き歌いできる。
○テキストの基礎編の中から指定された曲を全て弾き歌いできる。

《テキスト》
『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一　編著（共同音楽出版社）
その他、必要に応じて担当教員から指示します。

《参考文献》
資料等は、必要に応じて配布します。

《成績評価の方法》
１．欠席が 1/3 を超えたものは発表演奏資格なし。
２．毎回の授業において指定曲をクリアし、Ｉ期においての最終段階(基礎編)が修了していること。
３．中間発表会及び研究発表会(グランドピアノによる個人発表演奏)において規定の課題(約１か月前に指示）ができていること。
４．授業態度が真面目であること。
５．受講進度表がきちんと整理されて記入してあること。
６．実技試験（60％＝中間発表会・研究発表会）と授業点（40％＝上記１～５及び備考１～４）の総合評価。

《授業時間外学習》
・予習
毎回、次の授業に向けての課題を指示しますから必要に応じて各自で練習してください。
・復習
毎回授業で扱ってきた曲を授業中に復習することにより着実にレパートリーを増やしていきます。授業中だけで復習の時間が不足と感じた時は個々で必要に応じて練習室や自宅等で練習してください。

《備考》
１．遅刻・早退は 20 分まで出席扱い（当該日の授業点を減点）とします。やむを得ず 20 分を超えそうな時は出席扱いとはなりませんが授業内容が毎回つながりをもちますので、そのような時でも必ず出席してください。
２．身だしなみとエチケット（つめ・髪・服装・靴等の清潔感）を心がけてください。
３．毎回受講進度表に必要事項を記入し指導者から必ずサインまたは捺印をもらってください。
４．講義室の使用上の注意事項を厳守し、授業終了時には次の使用者のために清潔を心がけてください。特に室内は飲食厳禁はもちろんこと、携帯電話の使用も厳禁（発覚の際は当該日の授業点を減点）です。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	『器楽Ａ』における授業内容の説明。指導者の紹介と個々の進度調査及び個人指導。
第 ２ 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から　かえるの合唱　メリーさんのひつじ　他
第 ３ 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から　かたつむり　きらきらぼし　他
第 ４ 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から　やきいもグーチーバー　とんぼのめがね　他
第 ５ 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から　くさいっぽん　大きなくりの木の下で　他
第 ６ 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から中間発表時の課題曲　※未履修曲の点検
第 ７ 週	「うたのメルヘン」から 中間発表会　期末（第 14 回）の研究発表会と同じく演奏会形式で実施する。
第 ８ 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から　ぶんぶんぶん　ちょうちょう　他
第 ９ 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から　ありさんのおはなし　ゆき　他
第１０週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から　チューリップ　こんこんクシャンのうた　他
第１１週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から　うみ　こいのぼり　他
第１２週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から研究発表時の課題曲　※未履修曲の点検
第１３週	「うたのメルヘン」から 研究発表会のための予備練習と不足部分を補い個人指導を行う。　※未履修曲の点検
第１４週	「うたのメルヘン」から 研究発表会
第１５週	器楽Ａの総まとめ。アンケート実施。『器楽Ｂ』の準備と課題確認。

《学科教育科目》

科 目 名	器楽Ｂ				
担当者名	吉良　武志・他				
授業方法	演習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
こどもたちと一緒に歌ったり、音楽の楽しさを共有することは、とても大切なことです。保育者にとって必要な音楽に関する基本的な技能、特にピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏及び伴奏能力の養成を授業の目標とします。ピアノの独奏にとどまらず、コードネームによる伴奏法や即興演奏能力も身につけることを目指します。学生個々の到達度に合わせ、個人レッスンと少人数のグループレッスンとを適宜おりまぜ、授業を進めます。

《授業の到達目標》
Ⅱ期の授業では、Ⅰ期「器楽Ａ」に続き、より高度な音楽的技能の養成に取り組みます。
○これまでに習得したピアノ演奏及び読譜技能をさらに高めます。
○コードネームによって、こどもたちの歌に簡単な即興伴奏ができる。
○実習など保育の現場で、こどもたちと一緒にピアノを弾きながらうまく歌える。
○同様に、こどもたちと鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器による合奏ができる。また、その指導ができる。

《テキスト》
『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一編著（共同音楽出版社）
学生個々の到達度に合わせたピアノ曲集等を、授業の中で適宜指示します。
また、必要に応じてプリント教材を配布します。

《参考文献》
授業の中で、適宜紹介します。図書館等で一読されることを望みます。

《成績評価の方法》
授業への出席回数が全体の三分の二に満たない者は、発表演奏できません。
発表演奏（60%）、及び出席状況等に見られる学習に取り組む姿勢（40%）で評価します。

《授業時間外学習》
音楽に関わる基本的な技能の習熟には、毎日の反復練習と各自の熱意がとても大切です。
毎回、次の授業に向けての課題を指示します。各自、毎日の練習は欠かさず実行しましょう。
何よりも音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう練習に励むことを期待します。
多くのピアノ曲やこどもの歌に触れ、得意な曲のレパートリーを増やしましょう。

《備考》
・注意事項等、Ⅰ期「器楽Ａ」に準じます。
・単に演奏技能を高めることにとどまらず、実際に演奏し、歌うことを通して、どのようにしてこどもたちと音楽の楽しい感動体験を共有すればいいのか学びましょう。
・学習内容の進捗状況により、授業計画が前後する場合もあります。
・楽器などの取り扱いには細心の注意を払い、また、清潔にするよう心がけましょう。
・毎日の繰り返しがとても大切です。休日も練習に励んで下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業内容の概説。個人レッスン担当教員の紹介、及び振り分け。 学生個々の到達度に合わせた練習課題の選択及び指導、練習方法の解説、指示。
第 2 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(1)
第 3 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(2)
第 4 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(3) 中間研究発表における演奏曲の選択、範奏、個人指導。
第 5 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(4) 中間研究発表における演奏曲の個人指導。
第 6 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(5) 中間研究発表における演奏曲の個人指導。
第 7 週	中間研究発表演奏、ディスカッション。その後、発表結果を踏まえた個人指導。
第 8 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(6)
第 9 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(7)
第１０週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(8)
第１１週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(9)
第１２週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(10) 期末研究発表における演奏曲の選択、範奏、個人指導。
第１３週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(11) 期末研究発表における演奏曲の個人指導。
第１４週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(12) 期末研究発表における演奏曲の個人指導。
第１５週	研究発表演奏。その後、ディスカッション、発表結果を踏まえた総括及び指導。

《学科教育科目》

科 目 名	造形Ａ				
担当者名	岩見　健二				
授業方法	演習	単位・必選	１・必	開講年次・開講期	１年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》
子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形することであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験を持っていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感覚を磨いてほしい。

《授業の到達目標》
自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《テキスト》
『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考文献》
適宜指示する。

《成績評価の方法》
・授業には、１０回以上の出席を持って成績評価の対象とする。
・作品評価（100%）

《授業時間外学習》
毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《備考》
特にない

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	クロッキー
第 3 週	鉛筆デッサン
第 4 週	鉛筆デッサン
第 5 週	鉛筆デッサン
第 6 週	水彩画（静物）
第 7 週	水彩画（静物）
第 8 週	水彩画（静物）
第 9 週	色彩指導
第１０週	色面構成
第１１週	色面構成
第１２週	色面構成
第１３週	色面構成
第１４週	色面構成
第１５週	子供の絵の見方

《学科教育科目》

科 目 名	造形Ａ				
担当者名	山下　彰一				
授業方法	演習	単位・必選	１・必	開講年次・開講期	１年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
造形活動を通して創造する楽しさを身につける。

《授業の到達目標》
幼児はすばらしい感性を持ち、活動的である。その個々の創造性を伸ばすには、まず保育者が、自ら身近にある事物をよく観察し、そして描き、創る、ことが大切である。そのために多くの創作体験をもつことにより豊かな感性と、創造力を養うべきである。

《テキスト》
入学時に提示する。

《参考文献》
授業中に適宜紹介する。

《成績評価の方法》
・授業には、10 回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
・提出作品（100%）の評価とする。

《授業時間外学習》
演習科目は、授業時間だけで済むものではない。授業時間外においても作品制作に取り組む姿勢が欲しい。

《備考》
・作品の提出期限の厳守
・スケッチブック（F6）を毎授業時に持参すること。
・その他　水彩道具一式、カッターナイフ、色鉛筆、定規、フェキノリ、ハサミを準備すること。次回持参するものを提示する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	鉛筆デッサン１
第 3 週	鉛筆デッサン２
第 4 週	鉛筆デッサン３
第 5 週	クロッキー
第 6 週	水彩画（静物）1
第 7 週	水彩画（静物）2
第 8 週	水彩画（静物）3
第 9 週	色彩指導
第１０週	色面構成１
第１１週	色面構成２
第１２週	色面構成３
第１３週	色面構成４
第１４週	色面構成５
第１５週	色面構成６

《学科教育科目》

科 目 名	造形Ａ				
担当者名	柳楽　節子				
授業方法	演習	単位・必選	１・必	開講年次・開講期	１年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》
造形遊びの楽しさを園児たちに伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知っていることが必要である。この演習授業では、造形の基礎となる描写力、色彩の知識、画面構成力を、課題制作を通して楽しみながら養えるよう、授業を進めていく。眼と手と頭、体全体を使って、受講生が造形の面白さを発見する力を養うことを目標とする。

《授業の到達目標》
＊自然のなかにある造形美への興味と知識を持つ。
＊色彩、デザイン、絵画、絵本、物語などに関心を持つ。
＊材料・用具を使いこなし、手順よく作品制作を進めることができる。

《テキスト》
『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考文献》
適宜紹介する。

《成績評価の方法》
提出作品 100％で成績評価を行う。
授業には 10 回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《授業時間外学習》
各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示を行う。

《備考》
事前に連絡された、授業に必要な準備物は必ず持参すること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	担当教員の自己紹介 授業計画の説明 受講学生の自己紹介作品作成及び提出
第 2 週	描写　植物
第 3 週	描写（着彩）　植物
第 4 週	描写　立方体　スクリーンプリントで展開図を刷る　組み立て
第 5 週	描写　立方体
第 6 週	描写　人物
第 7 週	描写（着彩）　人物
第 8 週	描写（着彩）　人物
第 9 週	色彩の知識　　テキスト使用
第１０週	色彩構成　１　トーナルカラー
第１１週	色彩構成　２　トーナルカラー
第１２週	色彩構成　３　コラージュ
第１３週	色彩構成　４　スクリーンプリント
第１４週	色彩構成　５　スクリーンプリント
第１５週	作品提出及びまとめ

《学科教育科目》

科 目 名	造形Ａ				
担当者名	満田　知美				
授業方法	演習	単位・必選	１・必	開講年次・開講期	１年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》
保育現場での造形遊び（お絵描き遊び）で生かせる基礎（描写、色彩、色彩構成）や道具の扱い方を学びます。
お絵描きあそびは、画用紙や絵具を使い好きなように表現します。
材料や道具に十分に馴れることで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ、それを絵や工作に表したくなってしまいます。
世界でたった一つのものを、自分の力だけでつくる。言葉でいいあらわせない気持ちを、存分に出すことができます。
まずは、小さな思いをコンセプトに、小さな作品から制作します。
子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案します。

《授業の到達目標》
○鉛筆を使いこなし自由に表現できるようになる。
○色と形を楽しみ、大胆さや繊細など幅広く表現できるようになる。
○素材や道具の特徴や特性を学び使いこなす。

《テキスト》
テキストは使用しない。毎時間ごとにシラバスと参考資料を配布します。

《参考文献》
お絵描きあそび　アトリエ・リュミエール　鈴木あきこ（主婦の友）

《成績評価の方法》
・授業出席（１０回以上の出席をもって成績評価の対象とする）２０％・全課題作品の提出５０％・試験３０％

《授業時間外学習》
・予習の方法／毎回、使用する素材や材料、道具を日頃から研究、収集する。
・復習の方法／授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べたりしてください。

《備考》
遅刻について／授業のはじめに出席をとります。その後、毎時間ごとのシラバスと参考資料の説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとします。

持物について／筆記用具、スケッチブック、色鉛筆、クレパス、水彩道具一式（絵具 筆 筆洗 パレット 台拭き）油性ペン水性ペン（各色）、ハサミ、カッター、フエキのり、スタンプ台 ※詳しくは、オリエンテーション時に説明します。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション　アンケート（造形あそびをする上での不安事項）　鉛筆基礎①ドリル（鉛筆の持ち方）
第 2 週	鉛筆基礎②　ドリル（線の練習、消しゴム）
第 3 週	鉛筆基礎③　ドリル（立体感 マチエール、線画）
第 4 週	鉛筆基礎④　ドリル（グラデーション、遠近の仕組み、輪郭線）
第 5 週	色と形を楽しもう①　こすりだし&まる、さんかく、 しかくでお絵描き（エリックカール技法、エンバリーおじさん技法）
第 6 週	色と形を楽しもう②　３原色でリアルな野菜を描こう
第 7 週	色と形を楽しもう③　村のチェロ弾き★コーヒーの香りー子供の物語性を引き出す想像の世界ー
第 8 週	スタンプ遊び①　指紋スタンプで描いてみよう
第 9 週	スタンプ遊び②　キャラクター制作（時間があればストラップ制作）
第１０週	スタンプ遊び③　共同制作とストーリー展開（班毎）
第１１週	きってやぶいてよーくみて①　いちごがいっぱい！何にみえるかな！
第１２週	きってやぶいてよーくみて②　巨大クッキングー焼そば
第１３週	重ねてコラージュ①　水きりえー水でぬらした小筆で色刷り新聞紙を切って貼る。
第１４週	重ねてコラージュ②　紙ビーズのアクセサリー
第１５週	授業計画を作ろう

《学科教育科目》

科 目 名	造形Ｂ				
担当者名	岩見　健二				
授業方法	演習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
とらわれない心を持つ幼児の表現を理解するには、自らも豊かな感性を磨かなければならない。
身近な材料を駆使し、既成概念にとらわれない斬新な作品を制作してほしい。

《授業の到達目標》
自らの感性を磨くことにより、子供の[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《テキスト》
無し。

《参考文献》
適宜紹介。

《成績評価の方法》
・授業には、１０回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
・作品評価（100%）

《授業時間外学習》
毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《備考》
特に無し。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	ポスター制作
第 3 週	色面構成
第 4 週	色面構成
第 5 週	色面構成
第 6 週	モビール制作
第 7 週	モビール制作
第 8 週	モビール制作
第 9 週	モビール制作
第１０週	モビール制作
第１１週	飛びだす絵本制作
第１２週	飛びだす絵本制作
第１３週	飛びだす絵本制作
第１４週	飛びだす絵本制作
第１５週	講評・採点

《学科教育科目》

科 目 名	造形Ｂ				
担当者名	山下　彰一				
授業方法	演習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
作品制作を通じて造形の楽しさを伝えることができる力を養う。

《授業の到達目標》
アイデアの出しかたと共に、多様な素材を扱う技術をトレーニングする。折にふれてアートの分野の作品紹介も行う。

《テキスト》
入学時に提示する。

《参考文献》
授業中に紹介する。

《成績評価の方法》
授業には 10 回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
提出作品（100%）の評価とする。

《授業時間外学習》
演習科目は授業時間だけで済むものではない。授業時間外においても作品制作にとり組む姿勢が欲しい。

《備考》
時間厳守。用具の準備は怠らない事。
スケッチブック（F6）を毎授業時に持参すること。
その他　水彩道具一式、カッターナイフ、色鉛筆、定規、フェキノリ、ハサミを準備すること。次回持参するものを提示する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	作品制作（切り絵）
第 3 週	作品制作（切り絵）
第 4 週	作品制作（紙ヒコーキ）
第 5 週	作品制作（紙ヒコーキ）
第 6 週	作品制作（モザイク画）
第 7 週	作品制作（モザイク画）
第 8 週	作品制作（パズル）
第 9 週	作品制作（パズル）
第１０週	作品制作（絵本）
第１１週	作品制作（絵本）
第１２週	作品制作（バルーン）
第１３週	作品制作（バルーン）
第１４週	作品制作（バルーン）
第１５週	合評

《学科教育科目》

科 目 名	造形Ｂ				
担当者名	柳楽　節子				
授業方法	演習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
この授業では、造形の基礎から応用へと発展する内容の課題作品を制作させることにより、受講生が保育現場に必要とされる柔軟な発想力と造形力を養うことを目標としている。多様な素材と技法に触れ、考え、試みることが造形に対する自信に繋がっていく授業をめざしたい。

《授業の到達目標》
＊自然や日常生活のなかに、造形のヒントを探し出す眼を持つ。
＊作品制作に必要な画材、道具類を自在に使うことができる。

《テキスト》
なし

《参考文献》
適宜紹介する。

《成績評価の方法》
授業には 10 回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
提出作品 100%による成績評価を行う。

《授業時間外学習》
各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示をおこなう。

《備考》
事前に連絡された、授業に必要な準備物は必ず持参すること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	担当教員作品紹介及び授業計画の説明 受講生による「私の夏休み」作品制作と提出
第 2 週	課題１　スクリーンプリントでＴシャツをつくる　①プラン作成　説明プリント配布
第 3 週	課題１　スクリーンプリントでＴシャツをつくる　②ポジフィルム作成及び製版
第 4 週	課題１　スクリーンプリントでＴシャツをつくる　③ポジフィルム作成及び製版 刷り
第 5 週	課題１　スクリーンプリントでＴシャツをつくる　④ 刷り ポジフィルム作成及び製版
第 6 週	課題１　スクリーンプリントでＴシャツをつくる ⑤ 刷り　　完成　作品提出 割りピン人形制作の説明プリント配布
第 7 週	課題２　割りピン人形を作る①　ラフスケッチ作成及び提出
第 8 週	課題２　割りピン人形を作る②
第 9 週	課題２　割りピン人形を作る③
第１０週	課題２　割りピン人形を作る④　作品提出
第１１週	課題３　季節行事の掲示板を作る　①　説明プリント配布
第１２週	課題３　季節行事の掲示板を作る　②
第１３週	課題３　季節行事の掲示板を作る　③
第１４週	課題３　季節行事の掲示板を作る　④
第１５週	作品提出及びまとめ

《学科教育科目》

科 目 名	造形Ｂ				
担当者名	満田　知美				
授業方法	演習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
造形遊びをする時、人間は生活していくために必要な行動が自然に組み込めれています。穴を開ける、縫う、編む、織る、切る、貼る、並べる、繋ぐ、組み立てる、こねる、包む、描く。子供は上記の事を遊びを通して行いいます。この様な活動の繰り返しの中で『形のなりたち』を体験することができます。園で開催される行事や展示立体作品を中心に、イベント企画を提案します。

《授業の到達目標》
○オリジナルの紙を作る（集める、並べる）
○粘土で記念品を作る（組み合せる、重ねる）
○ダンボール、布、缶で壁面や展示品を作る（組み換える、生かす）

《テキスト》
テキストは使用しない。毎時間ごとにシラバスと参考資料を配布します。

《参考文献》
イタリア／レッジョ・エミリア市の幼児教育実践録　子どもたちの１００の言葉（学研）

《成績評価の方法》
・授業出席（１０回以上の出席をもって成績評価の対象とする）２０％・全課題作品の提出５０％・試験３０％

《授業時間外学習》
・予習の方法／毎回、使用する素材や材料、道具を日頃から研究、収集する。
・復習の方法／授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べたりしてください。

《備考》
遅刻について／授業のはじめに出席をとります。その後、毎時間ごとのシラバスと参考資料の説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとします。

持物について／筆記用具、スケッチブック、色鉛筆、クレパス、水彩道具一式（絵具 筆 筆洗 パレット 台拭き）油性ペン水性ペン（各色）、ハサミ、カッター、フエキのり、スタンプ台 ※詳しくは、オリエンテーション時に説明します。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション 課題、材料，道具の説明。アンケート
第 2 週	造形遊び①　集める、並べる１　エリックカールの技法。紙の引き出し制作
第 3 週	エリックカールの技法。模写作品
第 4 週	集める、並べる２　粘土でミニチュアクッキング。food 作り
第 5 週	粘土でミニチュアクッキング。盛りつけ、時間があればストラップ制作
第 6 週	集める、並べる３　ガチャポンの風鈴
第 7 週	造形遊び②　組み合せる、重ねる１　立体ワンコ。型紙切断、組み立て。
第 8 週	立体ワンコ。組み立て、張子作業
第 9 週	立体ワンコ。張子作業、ジェッソ塗り、下図犬制作
第１０週	立体ワンコ。ジェッソ塗り、下図犬制作、本塗り
第１１週	立体ワンコ。本塗り
第１２週	造形遊び③　組み換える、生かす１　カンカン宝箱
第１３週	組み換える、生かす２　お昼ねテント&ふりふりフラッグ
第１４週	造形遊び④　全作品完成チェック後、学内にてピクニックを開催
第１５週	年内行事『ピクニック』『遠足』『散歩』企画案を作ろう。

《学科教育科目》

科 目 名	幼児体育Ａ				
担当者名	宮川　和三				
授業方法	演習	単位・必選	１・必	開講年次・開講期	１年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》
幼児期の発育発達の特徴を踏まえ、幼児の各年齢に応じた遊びや援助法を考える。また、これを保育現場において、応用実践できる能力の習得を目指す。

《授業の到達目標》
幼稚園、保育所教育に必要な体操、スポーツ、レクリエーション種目及び集団行動を遊びゲームを通して子どもに身につけさせる為の研究を主なねらいとし、幼児期の特徴を踏まえ、実技の研修からそれぞれにふさわしい指導法を習得する。

《テキスト》
使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》
『健康』原田碩三他著（エデケィーション）
『体操ハンドブック』浜田靖一他著（ビジネス出版）
『幼児期の運動遊びの指導と援助－鉄棒・跳び箱・マットあそびの補助を中心に』菊池秀範著（萌文書林）

《成績評価の方法》
各種目毎に実技試験を実施。
毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。
授業回数の１／３を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》
毎回の実技・援助法等についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》
授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。
学生同士の協調性を求め、実技を主体とする。
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。
授業中の携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	幼児期の発育発達の特徴について説明
第 2 週	マットを使った運動　（援助法等） 〈匍匐、バランス運動〉
第 3 週	マットを使った運動　（援助法等） 〈匍匐、バランス運動、ジャンプ運動〉
第 4 週	マットを使った運動　（援助法等） 〈前転、後転、横転〉
第 5 週	マットを使った運動　（援助法等） 〈側転、倒立、前転、後転開脚前転の組合せ〉
第 6 週	学習のまとめ
第 7 週	跳び箱を使った運動　（援助法等） 〈踏切板の蹴りのいろいろ、跳び箱の支持とジャンプ〉
第 8 週	跳び箱を使った運動 とびのり、とびおり遊び
第 9 週	跳び箱を使った運動　（援助法等） 〈蹴り、腕支持、ジャンプ、横とび〉
第１０週	跳び箱を使った運動　（援助法等） 〈開脚、閉脚とび、台上前転〉
第１１週	跳び箱を使った運動　（援助法等） 〈開脚、閉脚とび、台上前転〉
第１２週	学習のまとめ
第１３週	ごっこ遊び
第１４週	ゲーム遊び・ごっこ遊び
第１５週	学習のまとめ

《学科教育科目》

科 目 名	幼児体育Ｂ				
担当者名	徳田　泰伸・宮川　和三				
授業方法	演習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
幼児期の発育発達の特徴を踏まえ、幼児の各年齢に応じた遊びや援助法を考える。また、これを保育現場において、応用実践できる能力の習得を目指す。

《授業の到達目標》
幼稚園、保育所教育に必要な体操、スポーツ、レクリエーション種目及び集団行動を遊びゲームを通して子どもに身につけさせる為の研究を主なねらいとし、幼児期の特徴を踏まえ、実技の研修からそれぞれにふさわしい指導法を習得する。

《テキスト》
使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》
『健康』原田碩三他著（エデケィーション）
『体操ハンドブック』浜田靖一他著（ビジネス出版）
『幼児期の運動遊びの指導と援助－鉄棒・跳び箱・マットあそびの補助を中心に』菊池秀範著（萌文書林）

《成績評価の方法》
各種目毎に実技試験を実施。
毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。
授業回数の１／３を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》
毎回の実技・援助法等についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》
授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。
学生同士の協調性を求め、実技を主体とする。
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。
授業中の携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	幼児期の発育発達の特徴について説明
第 2 週	鉄棒を使った運動　（援助方法等） 〈腕支持、ぶらさがり、踏み越しおり、足ぬき、ぶたの丸やき〉
第 3 週	鉄棒を使った運動　（援助方法等） 〈腕支持、逆さおり、前まわりおり、倒立おり、持ちかえおり〉
第 4 週	鉄棒を使った運動　（援助方法等） 〈倒立おり、足かけあがり、逆あがり〉
第 5 週	鉄棒を使った運動　（援助方法等） 〈前まわり、後まわり、逆あがり、足かけあがり〉
第 6 週	学習のまとめ
第 7 週	トランポリンを使った運動　（援助方法等） 〈あがり方、おり方、とまり方、１人・２人ジャンプ〉
第 8 週	トランポリンを使った運動　（援助方法等） 〈1 人・2 人ジャンプ、ニードロップ、シートドロップ〉
第 9 週	トランポリンを使った運動　（援助方法等） 〈ニードロップ、シートドロップ、ニードロップ連続〉
第１０週	トランポリンを使った運動　（援助方法等） 〈ジャンプ 1／2、ニードロップ、シートドロップ連続〉
第１１週	トランポリンを使った運動　（援助方法等） 〈ジャンプ 1／2、シートドロップ、ニードロップ、シートドロップ連続〉
第１２週	学習のまとめ
第１３週	ごっこ遊び
第１４週	ゲーム遊び・ごっこ遊び
第１５週	学習のまとめ

《学科教育科目》

科 目 名	子どもの保健ＩＡ				
担当者名	西村　美穂代				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	１年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》
乳幼児が心身の健全な成長・発達を達成するために、小児の生活・発達段階にかかわる基礎的な事項(心身の健康)を理解するための学習。

《授業の到達目標》
胎生（胎児）からの乳幼児の成長・発達、乳幼児の特性を理解することができ、小児保健の意義を学び保育者としての保育・養護に必要な知識を修得する。

《テキスト》
新改訂版「わかりやすい小児保健」　第二版 西村昂三 編著 同文書院

《参考文献》
その都度、提示する

《成績評価の方法》
中間テスト（30%）、VTR 視聴（学習）のレポート提出（20%）、期末テスト（50%）
「授業欠課回数が授業実施回数（15 回）の 3 分の 1 以上欠課した学生は単位を与えない」
但し、正当な欠課理由がある場合には、その証明となるものを提出すること。

《授業時間外学習》
テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴します。
テレビの特性である動画・声・音から、目・耳を通して、子どもの様々な特徴や親の子どもに対するおもい・かかわり方を感じ取り、授業時にイメージできるようにしておいてください。
番組は次の 2 番組を予定します。
1. よみうりテレビ「ten!〔めばえのコーナー〕」（月曜日～金曜日・18：52～18：57）
2. NHK 教育テレビ「すくすく子育て」（毎週土曜日・21：00～21：29）※番組内容（テーマ）は、毎週異なります。

《備考》
ニュースや新聞等での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を、講義に取り入れることもありますので注目しておいてください。
子どもを育てる職業を目指す皆さんであり、授業では人の話しを聴く・聴講のマナーを守る、という態度を示してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	開講にあたり担当者と学生との共通理解事項 小児保健Aの学習目的・展開方法 各自がもつ健康な子どものイメージ
第 2 週	小児期の区分（新生児～思春期） 出生前期の成長発達の特徴
第 3 週	出生前期の子どもの成長発達・健康を保持増進するための取り組み
第 4 週	新生児の成長発達（形態的・機能的・精神的）の特徴（VTR 視聴）
第 5 週	新生児期の子どもの成長発達・健康を保持増進するための取り組み
第 6 週	乳児の成長発達の特徴（乳児期全般の特徴）（VTR 視聴）
第 7 週	乳児の成長発達の特徴（各時期ごとの主な体と心の発達）
第 8 週	幼児の成長発達・健康を阻害する要因
第 9 週	幼児期前期・幼児期後期の養護（排泄・清潔・う歯・栄養(食生活）・遊び）
第１０週	乳幼児の健康管理と身体発育の評価
第１１週	予防接種(保育所・幼稚園での予防接種の意義・ワクチンの特徴)
第１２週	予防接種（ワクチンの種類と感染症）
第１３週	小児保健対策・小児保健統計（人口・出生・死亡）
第１４週	母子保健サービスによる主な健康支援事業(主に病後児保育について) 「健やか親子 21」の取り組み
第１５週	まとめ・期末テスト

《学科教育科目》

科 目 名	子どもの保健ＩＢ				
担当者名	西村　美穂代				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
子どもの保健ＩＡで学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい疾患・症状・事故についての理解を深めるとともに、保育者として子どもの異変時に的確な判断が行え、対応できる力を身につける学習。

《授業の到達目標》
乳幼児特有の疾患・症状の理解ができ、その予防と対応方法、事故に対する安全対策・事故時の対応が行え、子どもの生命を守ることができるように知識の獲得ができる。

《テキスト》
新改訂版「わかりやすい小児保健」　第二版 西村昂三 編著 同文書院

《参考文献》
その都度、提示する。

《成績評価の方法》
VTR 視聴（学習）のレポート提出（20%）、期末テスト（50%）、中間テスト(30%)
「授業欠課回数が授業実施回数（15 回）の 3 分の 1 以上欠課した学生は単位を与えない」
但し、正当な欠課理由がある場合には、その証明となるものを提出すること。

《授業時間外学習》
テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴します。
テレビの特性である動画・声・音から、目・耳を通して、子どもが病気になった時の状態を知り、その対応方法を学び、授業時にその病気と対応方法が想起できるようにしておいてください。
番組は次の番組を予定します。
○NHK 教育テレビ「すくすく子育て」（毎週土曜日・21：00～21：29）
　※番組内容（テーマ）は、毎週異なります。

《備考》
ニュースや新聞での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を講義に取り入れることもありますので、注目しておいてください。
通園（保育園・幼稚園）している健康な子どもたちに「命の大切さ」を教えてほしいと願う思いから、疾患についての授業では「難病にかかり死にゆく子ども」の VTR を視聴します。
子どもを育てる職業を目指す皆さんであり、授業では人の話しを聴く・聴講時のマナーを守る、という態度を示してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	開講にあたり担当者と学生との共通理解事項 小児保健Ｂの学習目的・展開方法 小児保健Ａの大まかな復習・確認
第 2 週	子どもに起こる主な症状と観察、その対応方法（VTR 視聴予定）
第 3 週	子どもによくみられる先天性の病気とそのかかわり方（VTR 視聴）
第 4 週	子どもによくみられるウイルスによる感染症 乳幼児によくみられるウイルスによる食中毒とその予防
第 5 週	子どもによくみられる細菌による感染症とその他の感染症 乳幼児によくみられる細菌による食中毒とその予防
第 6 週	子どもによくみられる呼吸器の病気
第 7 週	子どもによくみられる消化器・循環器の病気
第 8 週	子どもによくみられる主な血液の病気と小児がん
第 9 週	第８週で学習した血液の病気（白血病）に罹患した子どもの VTR 視聴
第１０週	子どもによくみられる腎臓・泌尿器・代謝の病気（VTR 視聴予定）
第１１週	子どもによくみられるアレルギー・皮膚・眼・鼻の病気
第１２週	子どもによくみられるストレスから起こる病気とそのかかわり方
第１３週	発達段階における事故と安全管理
第１４週	子どもの事故による救急処置：熱中症・骨折・やけど・出血・異物（消化管異物・気管内異物）
第１５週	まとめ・期末テスト

《学科教育科目》

科 目 名	児童家庭福祉				
担当者名	杣山　貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	１年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》

現代社会における児童家庭福祉の現状と課題について学習します。

保育士は保育，子育て支援の専門職であることを認識し，児童家庭福祉での学びが実践活動に活かせられるようにすることを目指します。

《授業の到達目標》

・現代社会における児童家庭福祉の現状と課題について理解し，主体的に考えることができるようにします。
・児童家庭福祉の歴史的変遷，制度や実施体系等について学び，保育実習に活かせられるようにします。
・児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解し，保育実習において検証できるようにします。

《テキスト》

『保育士養成テキスト３　児童福祉』　山野則子・金子恵美編著　（ミネルヴァ書房）

《参考文献》

授業中に紹介する予定でいます。

《成績評価の方法》

テスト（100%）で評価します。

《授業時間外学習》

テキストに沿って授業は進めます。事前にテキストを読んでおいてください。

《備考》

本授業は，「保育実習Ｉ」(施設)に連動しています。保育士として必要な児童家庭福祉に関する専門的知識を学ぶ場です。平易に説明するよう努めますので，学生の皆さんは「授業時間外学習」を充実させて授業に臨むようお願いしておきます。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	保育者と児童家庭福祉 現代の子どもと親の実態，児童家庭福祉における現代的課題と保育者
第 2 週	子どもと家族 家族とは何か，家族の養育機能，子どもと社会，少子高齢社会と児童家庭福祉
第 3 週	児童家庭福祉の理念とその歴史的展開 児童家庭福祉理念の変遷，子どもの権利
第 4 週	わが国の児童家庭福祉に関する制度と福祉機関・施設 児童家庭福祉を支える法律，制度，実施機関
第 5 週	児童家庭福祉の現状と課題-1 少子化対策と子育て支援に関する児童福祉サービスの変遷と実情
第 6 週	児童家庭福祉の現状と課題-2 健全育成，児童厚生施設
第 7 週	児童家庭福祉の現状と課題-3 母子保健サービスの目的と意義，実施体制
第 8 週	児童家庭福祉の現状と課題-4 保育サービスの今日的意義と目的，保育所の歴史と役割
第 9 週	児童家庭福祉の現状と課題-5 児童虐待，虐待防止に関する施策とサービス，保育者の役割
第１０週	児童家庭福祉の現状と課題-6 障がいのある子どもと家庭へのサービス，早期療育
第１１週	児童家庭福祉の現状と課題-7 社会的養護，児童福祉施設の種別とその目的，家庭的養護
第１２週	児童家庭福祉の現状と課題-8 少年非行の実態，児童自立支援施設の内容とその役割，情緒障がい　（視聴覚教材使用）
第１３週	児童家庭福祉の現状と課題-9 ひとり親家庭の動向と支援策，母子生活支援施設の実情，父子家庭の福祉施策
第１４週	諸外国の児童家庭福祉の現状 スウェーデンの保育所の実態，児童家庭福祉の理念を踏まえた保育所のあり方　（視聴覚教材使用）
第１５週	児童家庭福祉の実践と児童家庭福祉従事者 児童家庭福祉の専門職，関連機関の連携，援助方法

《学科教育科目》

科 目 名	保育原理Ａ				
担当者名	福田　規秀				
授業方法	講義	単位・必選	２・必	開講年次・開講期	１年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》

今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史的変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。

《授業の到達目標》

保育とは何かを問い続けることは子どもを理解すること、保育のあり方について探究することであり、それは自らの子ども観・保育観の形成、向上につながっていくものである。この講義では、保育の基本原理を学ぶことを通して乳幼児期における保育の意義について概観し、その内容の基盤を多様な角度から考察する中で、保育者として必要な基礎的知識の習得を目指す。つまり保育実践にあたり必要となる基本的な知識の習得と自らの保育や子どもへの想いを自覚することを目指します。

《テキスト》

『新・保育原理』－すばらしき保育の世界－（みらい　２００９）
『最新保育資料集２０１１』森上史朗編（ミネルヴァ書房　２０１１）
『保育所保育指針解説書』厚生労働省編（フレーベル館　２００８）

《参考文献》

『フレーベルの生涯と思想』荘司雅子著（玉川大学出版部　１９８４）
『子どもの世界をどうみるか』津守真著　（ＮＨＫブックス　１９８７）
『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著　上遠恵子訳（新潮社　１９９６）
『クリティカル進化論』道田泰司・宮元博章著　秋月りす画（北大路書房　１９９９）
『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館　２００８）
その他授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（20%）と筆記試験（80%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。
授業回数の 1/3 を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

講義終了時に次回講義の予告を出来うる限りで行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。
学びにはリフレクションが重要です。よって講義中に取ったメモをもとに、講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。
適宜課題を出すので真面目に取り組んでください（例えば子どもに関する新聞記事のスクラップやネットを利用した情報収集、メディアを駆使したレポート課題の提出等）。

《備考》

全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。
保育所保育指針をはじめ、法令を見ることも多いので『最新保育資料集』を忘れないこと。
子どもに関する情報を様々なメディアを通じて自分でも収集することに努めること。また実際の子どもを観察する機会を多く持ってほしい。
予習、復習に当たっての疑問は、講義時やオフィスアワー等を利用して遠慮なく質問してください。
保育者を目指すにあたり、出席や受講態度、事前準備に気をつけること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	授業へのオリエンテーション、保育の意義を考える－保育とは
第 ２ 週	保育の意義を考える－なぜ保育が必要なのか
第 ３ 週	保育の場について知る－家庭－保護者の責務とその限界
第 ４ 週	保育の場について知る－保育施設－社会的意義
第 ５ 週	保育の思想とその歴史を学ぶ－諸外国
第 ６ 週	保育の思想とその歴史を学ぶ－諸外国
第 ７ 週	保育の思想とその歴史を学ぶ－日本
第 ８ 週	保育の思想とその歴史を学ぶ－保育制度の成立
第 ９ 週	どのように保育を考え進めるべきかを考える－保育所保育指針－保育の原理
第１０週	どのように保育を考え進めるべきかを考える－養護と教育・環境・発達過程・連携
第１１週	どのように保育を考え進めるべきかを考える－子ども理解と保育観・倫理観
第１２週	保育の内容を学ぶ－基本的な考え方・方法とは
第１３週	保育の現状と課題－諸外国の現状
第１４週	保育の現状と課題－保育のあした
第１５週	まとめ・筆記試験

《学科教育科目》

科 目 名	社会的養護				
担当者名	高谷　博之				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会的養護の今日的課題と意義について学ぶ。

家庭の養育機能の脆弱化が進む中、子育て支援、子どもの自立支援が重要な課題となっている。家庭養護の機能を再構築するために、地域社会・公的役割を模索すると共に、その社会的養護の意義について学ぶ。又、社会的養護実践の大きな部分を占める児童福祉施設の機能を理解すると共に、児童養護の体系の理解を深める。保育士として、子どもと向かい合い、子どもの自立を支援するための対人援助の方法を理解すると共に模索する。

《授業の到達目標》

・施設養護の基本原理（原則）を説明できる。
・児童憲章、子どもの権利条約について説明できる。
・専門職としての専門性を理解し、施設実習に役立てることができる。

《テキスト》

シリーズ福祉新時代を学ぶ　『三訂　新選・児童養護の原理と内容』　神戸賢次、喜多一憲・編　㈱みらい

《参考文献》

《成績評価の方法》

・筆記テスト（70%）（ノートのみ持込可とする）
・レポート課題等の提出物（30%）（提出遅れについては、減点する）
・授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない

《授業時間外学習》

・教科書の指定箇所を読んでおくこと（予習・復習）

《備考》

・授業開始時に出欠の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
・授業中の私語や携帯メール、居眠りは厳禁。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	社会的児童養護の現状（子どもを取り巻く環境、社会的児童養護を必要とする子ども）
第 ２ 週	児童養護の定義　児童虐待の未然防止について
第 ３ 週	捨てられ体験について
第 ４ 週	社会的児童養護の歴史と今日的課題　「子どもの最善の利益」について
第 ５ 週	社会的児童養護の基本理念　「子どもの権利条約」について
第 ６ 週	施設養護の基本原理
第 ７ 週	施設養護実践における専門性の課題　要保護児童の発達課題
第 ８ 週	施設養護の実践と方法　「日常生活・自立支援」
第 ９ 週	施設養護の実践と方法　「治療的援助」
第１０週	施設養護の実践と方法　「親子関係、学校・地域との関係調整」
第１１週	地域の社会的児童養護機関
第１２週	次世代育成支援と地域の子育て支援
第１３週	施設養護の職員と求められる倫理
第１４週	職員の専門性の課題　施設運営と財政措置
第１５週	児童養護における養育のあり方　学習のまとめ・筆記テスト

《学科教育科目》

科 目 名	教育実習				
担当者名	藤井　恵美子・黒崎 令子				
授業方法	実習	単位・必選	５・選	開講年次・開講期	１年・Ｉ期分

《授業のねらい及び概要》
教育実習に必要な知識、実践技能を総合的に身につける。事前指導においては，幼稚園の基本を学び、幼稚園教育への意欲を持って取り組むとともに、幼児の発達を理解しそれにあった保育の実践力を身につける。事後指導では，実習で学んだことを振り返り，課題を明確にし、積極的に実践力を身につける。

《授業の到達目標》
・幼稚園教育の基本を知る。
・幼稚園生活における幼児の姿を理解し，保育実践につながるようにする。
・指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに，保育技術の習得を図る。

《テキスト》
「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）
「実習の手引き」兵庫大学短期大学部
「実習日誌の書き方」相馬和子･仲田カヨ子編（萌文書林）
「保育実技」久富陽子編（萌文書林）

《参考文献》
適宜授業中に紹介する。

《成績評価の方法》
実習における評価（７０％）、授業中に課す提出物、発表内容及び期限厳守、授業態度（３０％）を
総合的に評価する。

《授業時間外学習》
・テキストの指定箇所をあらかじめ熟読しておくようにしてください。
・授業では沢山の教材･教具を紹介します。各自、保育に活かせる教材･教具を計画的に収集してください。
・適宜課題を出します。その課題に取り組み期日に提出するようにしてください。
・手遊び、歌、絵本などの教材集を作成します。それらの教材研究を計画的に進めてください。
・授業内容を再確認し，不明な点は次回の授業で質問したり調べたりするようにしてください。

《備考》
実習を受けるための資格条件を厳守し，積極的、意欲的に授業に参加すること。正当な理由のない欠席、遅刻、早退については厳重に注意する。実習内規及び要綱に従って実習参加の可否を決定する。その他、授業の妨害になることは厳重に対処する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	オリエンテーションおよび幼稚園の基本について 幼稚園教育要領に基づいて
第 ２ 週	教育実習について ・実習の意義と目的
第 ３ 週	保育者を目指すあなたへ ・幼稚園現場を知る ・幼稚園教諭の仕事と役割 ・ビデオ視聴
第 ４ 週	保育者を目指すあなたへ ・幼稚園生活について
第 ５ 週	教育実習について ･実習生の心得（マナー講座）
第 ６ 週	幼稚園生活について ・幼稚園見学（３歳児･４歳児･５歳児の姿） ・現場の先生の講話（３・４・５歳児担任から）
第 ７ 週	幼児の発達について（幼児理解） ･幼稚園見学から学んだこと
第 ８ 週	教育課程･指導計画･日々の保育 ･幼稚園現場の実践の資料から
第 ９ 週	幼児理解と教師の援助のポイント ・ビデオ視聴
第１０週	保育の実際（Ｉ）
第１１週	保育の実際（２）
第１２週	保育の実際（３）
第１３週	保育の実際（４）
第１４週	保育の実際（５）
第１５週	まとめと課題

《学科教育科目》

科 目 名	教育実習				
担当者名	藤井　恵美子・黒崎 令子				
授業方法	実習	単位・必選	５・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

実習に必要な知識、技能を身につける。事前指導においては、幼稚園の基本を学び，幼児教育へ意欲を持って取り組むとともに、幼児の発達を理解しそれに合った保育の実践力を身につける。事後指導では，実習で学んだことを振り返り、課題を明確にし、積極的に実践力を身につける。

《授業の到達目標》

・幼稚園生活の流れを知り、保育者の仕事の実態把握に努める。
・教育実習生としての必要な心得や行動、保育や幼児理解の実際に携わる素地を身につける。
・保育における基礎的事項を理解し現場での指導を受ける。

《テキスト》

「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）
「実習の手引き」兵庫大学短期大学部
「実習日誌の書き方」相馬和子・仲田カヨ子編（萌文書林）
「保育実技」久富陽子編（萌文書林）

《参考文献》

適宜授業中に紹介する。

《成績評価の方法》

実習園における評価（７０％）、授業中に課す提出物、発表内容及び期限厳守、授業態度（３０％）を総合的に評価する。

《授業時間外学習》

・テキストの指定箇所をあらかじめ熟読しておくようにしてください。
・授業では沢山の教材･教具を紹介します。各自、保育に活かせる教材･教具を計画的に収集してください。
・適宜課題を出します。その課題に取り組み，期日に提出するようにしてください。
・手遊び、歌、絵本などの教材集を作成します。それらの教材研究を計画的に進めておいてください。
・授業内容を再確認し、不明な点は次回の授業で質問したり調べたりするようにしてください。

《備考》

実習を受けるための資格条件を厳守し，積極的、意欲的に授業に参加すること。正当な理由のない欠席、遅刻、早退については厳重に注意する。実習内規及び要綱に従って実習参加の可否を決定する。その他、授業の妨害になることは厳重に対処する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	教育実習について ・見学・観察実習の進め方 ・見学・観察実習と参加･指導実習の違いなど
第 ２ 週	実習生としての視点について ･幼稚園生活の流れを知る ･実習で学びたいことなど
第 ３ 週	実習生としての視点について ･子どもの姿を見る
第 ４ 週	実習生としての視点について ・保育内容をどう見るか ・子どもの姿と教師の援助 ・ＶＴＲ視聴
第 ５ 週	実習日誌の書き方について ・実習園のオリエンテーション ・１週間の保育の流れ ・園の環境構成など
第 ６ 週	実習日誌の書き方について ・観察のポイント ・環境構成
第 ７ 週	実習日誌の書き方について ・子どもの活動並びに教師の援助 ・実習生として感じたこと，考えたこと
第 ８ 週	実習日誌の書き方について ・観察場面の記録 ・反省、課題について
第 ９ 週	実習に向けての心構えと注意点 ･持ち物、服装、身だしなみ、実習中の態度など実習生としての在り方
第１０週	実習後の反省と課題 ・グループ討議 ・お礼状を書く
第１１週	実習後の反省と課題 ・各グループの発表 ・参加指導実習へ向けての自己の課題
第１２週	指導計画作成と保育教材作り（グループ）
第１３週	指導計画作成と保育教材作り（グループ）
第１４週	模擬保育（グループ発表）
第１５週	まとめと２年次へ向けての課題

《学科教育科目》

科 目 名	保育実習Ⅰ				
担当者名	宮川 和三・徳永 満理・杣山 貴要江・臼井 なつみ・三浦 かおり				
授業方法	実習	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	1年・通年

《授業のねらい及び概要》
保育所及び居住型児童福祉施設等ないしは障害児通所施設等の生活に参加し、子どもたちへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能やそこでの保育士の業務内容等について具体的、体験的に学ぶ。

《授業の到達目標》
１．保育所、児童福祉施設等の役割や機能について具体的に理解する
２．観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を少しでも深める
３．既習の教科の内容を踏まえ、子どもの実状に応じた保育について具体的に学ぶ
４．保育の記録に基づく省察や自己評価、計画に基づく実践について具体的に学ぶ
５．保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める

《テキスト》
決まったものはありません。実習の中で自分で探してください。

《参考文献》
各教科や保育実習指導Ⅰで使用した教科書、参考文献、配布物等。自分で書き溜めたノート。
自分で調べたり、体験したこと。
実習先の先生方にも紹介してもらってください。

《成績評価の方法》
実習意欲や態度、子どもたちとの関わり、記録や計画の理解等に関しての評価項目に従い、実習園にて評価票が作成される。その評価に基づき、保育実習指導Ⅰの受講状況を加味し、実習ノートを精査して総合的に評価する。なお保育実習Ⅰは保育所実習２週間、施設実習１０日間の両実習をクリアしないと単位認定されない。

《授業時間外学習》
以下の事を心に留めてください。

子どもたちとの出会いの最初が実習ではなく、ボランティアで積極的に保育現場等を訪問し、子どもたちとの関わりを経験すること。
実習までに少しでも遊びのレパートリーを増やしておくこと。
各教科で学んだことを単なる知識にとどめることなく、それを実践しようという意欲をもつこと。それに迷えば各教科担当に遠慮なく質問すること。
実習に入る直前ではなく少し前から、体調管理等実習に臨む気持ちを高めること。また実習課題や実習計画を何度も見返し、意識すること。

実習中はアルバイト禁止です（そういう余裕はありません）。
実習初期は何を質問したらよいかも分からないことが多いです。とにかく先生方や子どもたちと関わり、分からないことを見つけてください。
学んだこと、教えていただいたことを実習ノートにしっかりと記述し、１日の振り返りをして次の日に臨んでください。
実習ノートを１日でも溜めると次の日の睡眠が大きく損なわれます。気をつけましょう。
実習ノートは自分だけでなく、他人に読んでいただくものです。丁寧に書いてください。

提出物等は期日を守ること。

態度は素直が一番です。

《備考》
ほう・れん・そうを忘れないこと（実習園にも学校にも）。
実習内容については、各実習園の指示に従ってください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	各実習園で実習スタイルは様々です。 年齢で言えば、各年齢を順番に回ったり、ひとつの年齢でずっと留まったり。各実習園で指示を出されますので、よく聞いてください。質問があれば、恥ずかしがらないで聞くこと。 ２週間、１０日間頑張ってください。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《学科教育科目》

科 目 名	保育実習指導Ⅰ				
担当者名	宮川 和三・徳永 満理				
授業方法	実習	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期分

《授業のねらい及び概要》

保育所の見学・観察や諸活動への参加、および実際に保育にあたることにより、児童の特性、保育所の内容と機能、保育士の職務の実際について実践的に学び、生きた子ども観・保育観を習得することを目的とする。(9月から10月にかけて2週間) そのために学内で、保育実習に必要な手続きを行い、実習の意義、具体的な内容・方法・心得などについて事前に学習する。

《授業の到達目標》

“子ども”と“保育”の実際の姿を通して、生きた子ども観・保育観を理解する。
保育所の一日の流れ、設備・機能や社会的役割を理解する。
保育士の役割とその内容を理解する。

《テキスト》

『最新保育資料集２０１１』森上史朗編（ミネルバァ書房　２０１１）
保育ライブラリ『保育所実習』(北大路書房)
配布プリント

《参考文献》

適宜、講義時に紹介する。

《成績評価の方法》

保育所実習（５０%)、施設実習（５０%）の評価を参考に評価する。
保育所実習の評価は現場評価（８０%)、事前事後指導（２０%）とする。

《授業時間外学習》

○居住近くの保育所（園）を見学させてもらう。(外からでも良い)。
○トライヤルウィークで保育所（園）を経験した人は、その時の内容を思い出して実習に生かせるようにする。
○家事の手伝いを積極的にする。

《備考》

１．保育実習Ⅰは、保育実習の事前事後指導・保育所実習・保育所以外の児童福祉施設での施設実習の３種類からなっている。
　　すべてを受けなければならない。
２．欠席・遅刻をしないこと。やむおえず欠席・遅刻の場合は、必ず保育研究室に電話をすること。
　　後日担当者の指示を受けること。
３．時には掲示での指導連絡もある。掲示を見て行動すること。(ピロティと保育研究室前)

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	保育実習とは（実習全体の説明） 保育士資格について
第 2 週	保育所の概要と実習の意義について 保育所と幼稚園の違い
第 3 週	保育実習の手続き 連休中に実習先の決定。私立は内諾依頼
第 4 週	保育所保育希望受け付け 個人票記入（写真用意）
第 5 週	保育所の生活Ⅰ（乳児）
第 6 週	保育所の生活Ⅱ（幼児） ・障害児保育
第 7 週	保育所最低基準 ・『保育所保育指針』について
第 8 週	実習の心構え（1）実習生として
第 9 週	実習の心構え（2） 公立保育所先順次発表
第１０週	実習の心構え（3）子ども達との関わり
第１１週	観察の観点と記録Ⅰ 実習の目標と課題
第１２週	観察の観点と記録Ⅱ 記録の書き方 巡回カード
第１３週	観察観点と記録Ⅲ 指導案の書き方 巡回カード
第１４週	実習中の注意事項 巡回カード回収 実習までの日程（夏休み中実習先へ挨拶など）　細菌検査容器配布
第１５週	直前指導　実習中の注意事項 巡回教員と顔合わせ　細菌検査受け付け

《学科教育科目》

科 目 名	保育実習指導Ⅰ				
担当者名	杣山 貴要江・臼井 なつみ・三浦 かおり				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

本演習では，保育実習の意義・目的を理解し，児童福祉施設等での実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し，自らの実習課題を明確にする。

《授業の到達目標》

・実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢，個人を尊重する考え方を理解する。
・プライバシーの保護と守秘義務について理解する。
・実習計画書の作成，実習中の観察，日誌等記録の書き方，養護技術を学習し，習得する。
・実習終了後は，実習全体を振り返り，実習報告書を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にする。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』内山元夫他編（みらい）

《参考文献》

『最新保育資料集 2011』（ミネルヴァ書房）

《成績評価の方法》

実習施設の評価（60%），事前学習：実習計画書の作成等（20%），事後学習：実習報告書の提出等（20%）

《授業時間外学習》

実習施設の種別ごとに，課題を出します。それに従って学習してください。

《備考》

全出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は，事前に保育研究室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション ・「保育実習Ⅰ」（施設）の内容説明／保育士資格取得における実習及び演習の位置づけ／本演習のルールについて／評価基準方法／使用テキストと参考書の活用について ・予定表の配布　・個人票の作成（下書き）
第 2 週	実習施設の確定（配当一覧表の開示） ・実習ノートの配布と内容説明 ・実習計画書の作成について（実習計画書下書き用紙配布） ・個人票の作成（清書）　・実習施設種別ごとの「保育実習指導」の予定表配布
第 3 週	保育実習指導１ ・視聴覚教材（1）による学習
第 4 週	保育実習指導２ ・視聴覚教材（2）による学習
第 5 週	保育実習指導３ ・書籍，専門雑誌等による学習
第 6 週	保育実習指導４ ・実習施設の特徴，具体的実習内容についての学習
第 7 週	保育実習指導５ ・養護系施設，障がい系施設の実際について学ぶ ・実習生に求められること
第 8 週	保育実習指導６ ・実習日誌の書き方等，記録について
第 9 週	保育実習指導７ ・「実習計画書」の作成
第１０週	保育実習指導８ ・実習計画書の完成と提出方法　・実習生の立場と心構えについて ・安全，疾病予防／実習中の感染性の病気について（インフルエンザ予防注射等） ・細菌検査容器配布，健康診断書の提出
第１１週	施設でのオリエンテーション（ＡＢＣＤクラス合同） ・オリエンテーションの意義と諸注意 ・施設への連絡方法及び実習施設・班ごとの連絡網作成と班長の決定 ・オリエンテーション報告書の提出について
第１２週	保育実習指導９ ・報告書の書き方と提出方法／『実習報告集』作成の意味／後輩のためのアンケート用紙配布 ・巡回指導教員の掲示と挨拶 ・施設への礼状について
第１３週	実習前最後の連絡（ＡＢＣＤクラス合同） ・実習施設へ持参する書類の配布
第１４週	「実習報告会」の準備 ・報告会での発表内容の確認 ・報告会の
第１５週	「実習報告会」の開催 ・実習施設ごとの報告 ・質疑応答等

《学科教育科目》

科 目 名	保育の心理学Ⅰ				
担当者名	松田　信樹				
授業方法	講義	単位・必選	２・必	開講年次・開講期	１年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階にわけ、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。

《授業の到達目標》
○誕生から死にいたるまでの生涯発達の流れを理解できるようになること。
○発達にかかわる心理学の基礎的事項を理解すること。
○保育者として一人の人間の発達を「見つめる」視点を身につけること。

《テキスト》
テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

《参考文献》
『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』　川島一夫・渡辺弥生（編著）　福村出版　2010
『新版発達心理学への招待』　柏木惠子・古澤頼雄・宮下孝広（著）　ミネルヴァ書房　2005
『よくわかる発達心理学』　無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）　ミネルヴァ書房　2004
『キーワードコレクション発達心理学[改訂版]』　子安増生・二宮克美（編）　新曜社　2004

《成績評価の方法》
最終回に行う授業目標の到達度評価（テスト）100％

《授業時間外学習》
参考文献として挙げた文献などを読むことで、授業中に取り上げたテーマについて理解を深めること。

《備考》
授業にただ出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておいてください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション：心理学そして「保育の心理学」への招待
第 2 週	人が発達するとはどういうことか？
第 3 週	人間の発達を支える遺伝と環境
第 4 週	胎児期・新生児期の発達
第 5 週	新生児期・乳児期の発達
第 6 週	乳幼児期の発達　その１
第 7 週	乳幼児期の発達　その２
第 8 週	幼児期・児童期の発達　その１
第 9 週	幼児期・児童期の発達　その２
第１０週	幼児期・児童期の発達　その３
第１１週	青年期の発達
第１２週	成人期の発達
第１３週	発達のつまずきについて理解する
第１４週	まとめ：人間の生涯発達をふりかえる
第１５週	まとめ：授業目標の到達度評価(テスト)

《学科教育科目》

科 目 名	児童心理学				
担当者名	松田　信樹				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
保育士あるいは幼稚園教諭が接する年齢段階にある子どもたちが、環境との関わりの中で、どのように成長していくのかを学ぶ。子どもの成長の過程を、人間関係や言葉、認知など様々な角度から描き出していきます。

《授業の到達目標》
○子どもの発達について様々な視点から捉えられるようになること。
○子どもの発達にとって人を中心とした環境との関わりが、なぜ大切かを説明できるようになること。

《テキスト》
テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

《参考文献》
『はじめて学ぶ乳幼児の心理 - こころの育ちと発達の支援』　桜井茂男（編）　有斐閣　2006
『グラフィック乳幼児心理学』　若井邦夫・高橋道子・高橋義信・堀内ゆかり（著）　サイエンス社　2006
『乳幼児発達心理学 - 子どもがわかる好きになる』　繁多進（編著）　福村出版　1999

《成績評価の方法》
授業目標の到達度評価（テスト）100%。

《授業時間外学習》
参考文献として取り上げた文献などを読むことで、授業中に取り上げたテーマについて理解を深めること。

《備考》
保育士や幼稚園の先生をこころざす学生のみなさんにとって、役に立つ授業を目指します。
授業にまじめに取り組める学生の受講を希望します。
ただ授業に出席するだけ、プリントをもらうだけでは、単位取得は困難です。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	イントロダクション:子どもの心理学を学ぶ意義
第 2 週	子ども時代の発達の特徴
第 3 週	親と子を結ぶ絆：愛着の発達
第 4 週	愛着の発達とコミュニケーション
第 5 週	ことばとコミュニケーションの発達
第 6 週	自分を取り巻く世界を知るはたらき：認知発達その１
第 7 週	自分を取り巻く世界を知るはたらき：認知発達その２
第 8 週	子どもの知的発達：ピアジェの理論をめぐって
第 9 週	子どもの発達と遊び
第１０週	発達の「つまずき」を正しく理解する　その１
第１１週	発達の「つまずき」を正しく理解する　その２
第１２週	他者のこころの理解と思いやりの発達
第１３週	自己と情動の発達
第１４週	子ども時代の発達をふりかえる
第１５週	まとめ：授業目標の到達度評価（テスト）

《学科教育科目》

科 目 名	臨床心理学				
担当者名	琴浦　志津				
授業方法	演習	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
臨床心理学とは、こころの治療に関する心理学である。フロイトは、大人の患者との精神分析治療の中で、人の情緒発達における幼児期の体験の重要性を発見した。フロイト以降の研究者は、フロイトの理論を基礎にしながら、より年少の乳幼児と母親との関係に焦点をあて、対象関係論をうちたてていった。そのようなこころの治療研究の歴史をたどりながら、人のこころの発達の理論について学び、人と人が関わることで育まれる関係性とその意味の理解ができるように学んでほしい。また人との関係の上での問題を呈する人々への理解と、自分自身への理解も深めていってほしい。

《授業の到達目標》
人の不安の源泉はどこにあるのかを知る。
人のこころの成長・発達において大切なことは何かを知る。
関係性とその意味について理解する。

《テキスト》
「保育・教育に生きる　臨床心理学」松島恭子監修・篠田美紀編著　光生館　2200 円

《参考文献》
「スクールカウンセラーがすすめる 112 冊の本」滝口俊子・田中慶江編　創元社 1400 円
「フロイト　その思想と生涯」ラッシェル・ベイカー　宮城音弥訳　講談社現代新書 420 円
「ユングの心理学」秋山さと子　講談社現代新書 420 円

《成績評価の方法》
授業への取組み 30%　授業内容の理解 50%　レポート 20%

《授業時間外学習》
毎回の授業から、次回の授業までの１週間の間に、授業内容に関して「思い浮かんだこと」を各自のノートに記入すること。

《備考》
テキスト以外にも必要な資料を多く配布するので、Ａ４サイズの用紙が入るファイルを用意し、毎回閉じておくこと。またノートも用意すること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション「臨床心理学とは何か」
第 2 週	フロイトの発見：無意識の世界をめぐって
第 3 週	フロイトの精神分析①
第 4 週	フロイトの精神分析②
第 5 週	精神分析学からみた乳幼児期①赤ちゃんの不安の源泉
第 6 週	精神分析学からみた乳幼児期②母子発達理論
第 7 週	精神分析学からみた乳幼児期③分離・個体化理論
第 8 週	ウィニコットの対象関係論①
第 9 週	ウィニコットの対象関係論②
第１０週	遊戯療法
第１１週	ユングの臨床心理学
第１２週	箱庭療法
第１３週	行動療法
第１４週	認知行動療法
第１５週	臨床心理学の理解について

《学科教育科目》

科 目 名	保育課程総論				
担当者名	藤井　恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	２・必	開講年次・開講期	１年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
- 教育課程・保育計画の全体構造・具体的な編成等を知る。
- 保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する環境構成、保育の内容について考える。
- 保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性の関係について学ぶ。

《授業の到達目標》
- 教育課程・保育計画の意義や目的を十分に理解し、理論と実践をつなぐことができる。
- 子どもの発達の過程を視点においた教育課程と保育計画に関する基礎的な知識を習得する。

《テキスト》
「教育課程･保育課程論」　神長美津子･塩谷　香編著　（光生館）

《参考文献》
「幼児教育課程・保育計画総論」　森上史朗・阿部明子　建帛社
「幼稚園教育要領」
「保育所保育指針」

《成績評価の方法》
筆記テスト５０％、レポート３０％、受講態度２０％

《授業時間外学習》
- 次回の授業範囲を予習しておくこと。特に、教科書をよく読んでおくこと。
- 適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめてきてください。
- 授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめておいてください。

《備考》
- 幼稚園・保育所などに関する情報（新聞、ニュースなど）を常に、意識して収集しておいてください。
- 教科書は必ず持参してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション（授業の目的、内容、方法、評価について）　保育とは何か
第 2 週	保育内容の変遷と教育課程
第 3 週	教育課程編成の意義と役割・基本的な考え方
第 4 週	幼児の遊びと学び
第 5 週	教育要領と教育課程の編成（保育内容としての「領域」・総合的な指導）
第 6 週	発達の理解と教育課程の編成
第 7 週	特色ある幼稚園づくりと教育課程の編成
第 8 週	指導計画の作成の手順　①
第 9 週	指導計画の作成の手順　②
第１０週	幼稚園における教育課程編成の実際
第１１週	保育所における保育計画　①
第１２週	保育所における保育計画　②
第１３週	現代社会と保育内容の課題
第１４週	さまざまな保育課題と保育内容
第１５週	現代の保育内容と実践のあり方について

《学科教育科目》

科 目 名	保育内容総論				
担当者名	篠原 いくよ・西小路 勝子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

乳幼児期は人間形成の基礎を培う最も重要な時期です。乳幼児がよりよい方向に発達していくためには、どのような「保育環境」「保育目標」のもとで、「子どもの発達」「保育内容」をどう関連付ければよいかを考えましょう。また、保育者の役割について、ビデオ視聴　実技　グループ討議などの具体的な実践事例を参考にしながら、自己学習することを目指してください。乳幼児の幸せを求め、保育内容への理解を深めていきましょう。

《授業の到達目標》

①保育ということの総体的な内容について理解し、説明できる
②幼児を理解するということの重要性について説明できる
③簡単な活動の指導計画を立てることができる
④保育の手立てについて理解し、簡単な模擬保育ができる

《テキスト》

「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館）
2008 年 3 月発表「保育所保育指針解説書」厚生労働省（ひかりのくに）

《参考文献》

育ての心（上・下）　倉橋惣三著（フレーベル新書）

《成績評価の方法》

・授業内課題（筆記試験・レポート課題等の提出物）　５０％
・模擬保育（模擬保育実施及び保育案作成・作業シートの記入）　３０％
・授業内発表（参加意欲・授業内態度）　２０％

《授業時間外学習》

模擬保育のための指導計画を作成する
模擬保育に必要な教材の選択と、実施のための練習

《備考》

・保育者・教師としては、子どもから尊敬され、保護者から信頼されることが必要です。そのためには自らの向上心を高め、規範意識をしっかりともつことが重要です。従って、授業内での私語やうつぶせ寝は止めましょう。また、実技に取り組むための教材研究を進めておいてください。
・保育に関することで迷うことは、何でも質問してきてください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の進め方と授業計画
第 2 週	保育をするということ　幼稚園教育要領・保育所保育指針の読み取りと研究
第 3 週	保育内容と子ども理解　①幼児期にふさわしい生活と指導
第 4 週	保育内容と子ども理解　②遊びを通しての総合的な指導の意味
第 5 週	保育内容と子ども理解　③一人一人の発達の特性に応じた指導
第 6 週	事例研究①　３歳児の園生活（前半）と指導内容　事例研究により３歳児の発達の課題を探る　《ＶＴＲ視聴》
第 7 週	事例研究②　３歳児の園生活（後半）と指導内容　事例研究により３歳児の発達の課題を探る　《ＶＴＲ視聴》
第 8 週	事例研究③　４歳児の園生活と指導内容　事例研究により４歳児の発達の課題を探る　《ＶＴＲ視聴》
第 9 週	事例研究④　５歳児の園生活と指導内容　事例研究により５歳児の発達の課題を探る　《ＶＴＲ視聴》
第１０週	教育課程・保育課程と指導計画　子どもの主体性と保育者の計画性
第１１週	指導計画（部分）の作成と実践１　模擬保育の実施と反省・課題についての討議（手遊び）
第１２週	指導計画（部分）の作成と実践２　模擬保育の実施と反省・課題についての討議（絵本指導）
第１３週	指導計画（部分）の作成と実践３　模擬保育の実施と反省・課題についての討議（簡単な製作指導）
第１４週	指導計画（部分）の作成と実践４　模擬保育の実施と反省・課題についての討議（教具を工夫した保育指導）
第１５週	保育内容の歴史的変遷・保育の多様性・保育は何処に向かうのか

《学科教育科目》

科 目 名	保育内容・人間関係				
担当者名	小原　義子				
授業方法	演習	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
人への愛情や信頼感、自立と協同の態度及び道徳性の芽生えを培うようにする教育目標に向け、乳幼児期における人とかかわる力を養う保育について学ぶ。
内容については、具体的な事例を通して、乳幼児期の特徴を理解し、発達の課題に即したよりよい援助のあり方を探り、保育者としての実践力を身につけていく。
保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「人間関係」に示されている「ねらい」及び「内容」などの具体的理解をする。

《授業の到達目標》
乳幼児期における人とかかわる力を養う保育の内容について知る。

《テキスト》
改訂『子どもと人間関係』人とのかかわりの育ち　　大場牧夫・大場幸夫・民秋　言　共著（萌文書林）
『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』　文部科学省（ひかりのくに株式会社）

《参考文献》
『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
『新しい幼児教育を学ぶ人のために』岩田純一・河嶋喜矩子　世界思想社

《成績評価の方法》
授業態度（４０％）、筆記試験（６０％）で評価する

《授業時間外学習》
・自分自身の人間関係について考えておくこと
・実習現場において、幼児の人間関係を読み取り学習しておくこと

《備考》
演習に関する課題や資料については、その都度提示する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業のねらいと概要・到達目標・評価についての理解
第 2 週	領域・人間関係の内容理解Ⅰ　＝幼稚園教育の基本と領域＝
第 3 週	領域･人間関係の内容理解Ⅱ　＝人間関係のねらい＝
第 4 週	領域･人間関係の内容理解Ⅲ　＝人間関係の内容＝
第 5 週	領域・人間関係の内容理解Ⅳ　＝人間関係の内容の取り扱い＝ ＝保育所保育指針＝
第 6 週	子どもにとっての家族　＝人間関係のはじまり＝
第 7 週	集団生活における人とのかかわりの育ち　=依存から自立・そして自律へ=
第 8 週	入園当初の子どもとの人間関係
第 9 週	人とのかかわりの育ちと言葉
第１０週	基本的生活習慣と人間関係
第１１週	友だちとのかかわり
第１２週	子どもにとっての地域・保育施設
第１３週	道徳性の芽生えを培う保育
第１４週	保育カリキュラムと実践
第１５週	まとめ・理解度の確認（乳幼児期における人とかかわる力を養う保育について）

《学科教育科目》

科 目 名	保育内容・言葉				
担当者名	徳永 満理				
授業方法	演習	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

乳幼児の言葉の発達とその獲得のみちすじを学習し、領域「言葉」のねらい、及び、内容について理解し、保育者として、その指導について学ぶ。

乳幼児は日常の生活の中で、大人との関わりを通して言葉を獲していく。その言葉を使ってものを認識し、想像力や創造力を育んでいく。その指導方法について、具体的な事例を通して学ぶ。

《授業の到達目標》

言葉を育てる文化財である絵本や紙芝居、童話、ペープサートなどを創ったり、実際に使って、保育者自身の言葉の感覚をみがき、幼稚園・保育所（園）における「言葉」に対する位置づけを理解する。

言葉の機能について理解し、乳幼児の言葉の獲得のプロセスに対応した言葉指導について理解する。

《テキスト》

『保育内容・言葉』第２版　阿部明子編著（建帛社）
『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説書』平成 20 年 10 月版
『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』平成 20 年告示

《参考文献》

『絵本で育つ子どものことば』　徳永満理著（アリス館）
適宜、講議時に紹介する。

《成績評価の方法》

テスト（６０％）　絵本づくり（２０％）
レポート提出・授業内発表（出席日数も含む）（１５％）
授業中の態度（５％）

《授業時間外学習》

手づくり絵本の作成
・絵本の読み聞かせ（全員実施）のための選書と練習

《備考》

１．正当な理由のない欠席、遅刻は厳重にチェックする。
２．授業中の飲食・携帯電話及び私語は厳禁。
３．提出物の期限は厳守する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション 　○講義の概要　○履修上の諸注意　○授業の進め方 領域「言葉のねらいと内容」 　○幼稚園指導要領　○保育所保育指針 絵本の読み聞かせの意義について－選書、読み方
第 2 週	子どもにとってのことばⅠ 　ことばの機能 　ことばと発達 演習　絵本の読み聞かせ
第 3 週	子どもにとってのことばⅡ 子どもの発達とことば獲得のメカニズムと特徴① 　出生から８，９か月まで 演習　絵本の選書と読み聞かせ
第 4 週	子どもにとってのことばⅢ 子どもの発達とことば獲得のメカニズムと特徴② 　８，９か月から２歳代 演習　絵本の選書と読み聞かせ
第 5 週	子どもにとってのことばⅣ゜ 子どもの発達とことば獲得のメカニズムと特徴③ 　３歳から４歳 演習　絵本の選書と読み聞かせ
第 6 週	子どもにとってのことばⅤ 子どもの発達とことば獲得のメカニズムと特徴④ 　６歳から６歳 演習　絵本の選書と読み聞かせ
第 7 週	ことばと環境 　人とのかかわり 　文化財とのかかわり 演習　絵本の選書と読み聞かせ
第 8 週	子どもの遊びとことば指導 文化財とのかかわり ①見たり、聞いたり、読んだり、演じたりする文化財の意味
第 9 週	文化財とのかかわり ①見たり、聞いたり、読んだり、演じたりする文化財 　お話し、紙芝居について 演習　紙芝居の演じ方
第１０週	文化財とのかかわり ②遊びの内容が文化財となるもの 　ことば遊び
第１１週	文化財とのかかわり ③遊びの内容が文化財となるもの 　劇遊び、ペープサート、その他
第１２週	子どもの生活とことば指導 聞くこと、考えること、表現すること①
第１３週	指導計画の立て方
第１４週	手づくり絵本の発表会
第１５週	授業のまとめ

《学科教育科目》

科 目 名	保育内容・表現Ｂ				
担当者名	谷内　繁子				
授業方法	演習	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
感性と表現に関する領域「表現」の造形的分野において、各自の理解を深めていくとともに豊かで柔軟な感性を磨き、保育の場面での実践力を身につける。また感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、表現する力を養い創造性を豊かにする

《授業の到達目標》
○保育所保育指針、幼稚園教育要領の領域「表現」に示された「ねらい」および「内容」の理解を深める。
○幼児の「表現活動」を総合的に引き出し、柔軟に受け止めることのできる保育者としての感性を養う。
○豊かな造形的表現を引き出すための具体的な教材研究を行う。

《テキスト》
『保育所保育指針解説書』文部科学省、フレーベル館、2008
『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2008

《参考文献》
『演習保育内容表現』金健他、建帛社、2009
『保育内容造形表現の探求』黒川健一編著、相川書房、1997
『保育内容表現』花原幹夫編著、北大路書房、2009
『保育をひらく造形表現』槇　英子著　萌文書林　2008

《成績評価の方法》
○筆記テスト 60%
○授業や演習への参加意欲と態度 20%
○レポート課題等への提出物 20%

《授業時間外学習》
○予習の方法
　テキストの指定箇所を読んできてください。また、適宜課題を出すので、その課題をやってきてください。
○復習の方法
　授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりしてください。

《備考》
○授業に関する資料と演習課題は授業時に指示します。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	領域「表現」が意味するもの：領域「表現」のねらいと内容
第 2 週	幼児の造形的表現の特性とその援助
第 3 週	造形的な感性と表現の育つ基礎：体験への導入、体験、活動の意味 演習「古新聞紙を使って」
第 4 週	造形的な感性と表現の育つ基礎：ぬたくり、ぬたくりの意味
第 5 週	造形的な感性と表現の育つ基礎：探求、創意・工夫 演習「空箱を使って」
第 6 週	造形的な感性と表現の育つ基礎：イメージを形に 演習「手作り紙芝居の作成」
第 7 週	造形的な感性と表現の育つ基礎：イメージを形に 演習「手作り紙芝居の完成と実演」
第 8 週	幼児の造形的表現へのアプローチ：イメージの誕生
第 9 週	造形的な感性と表現の育つ基礎：表現意欲、環境とのかかわり、人とのかかわり
第１０週	造形表現の理解：描画能力の発達、製作の発達段階
第１１週	造形表現の特質：視覚、イメージ、表現、いろいろな画材、材料での表現 演習「画材・材料を使っての表現」
第１２週	保育者の役割と援助：環境構成のポイント、造形活動への誘い、日常生活に関する配慮 演習「身近な素材を使っての表現」
第１３週	保育者の役割と援助：指導計画作成、指導方法、発達傷害のある子どもにとっての表現活動
第１４週	保育における造形の変遷：造形教育センターの理念と実践
第１５週	まとめ：保育者の役割と援助：「生活発表会」における造形表現の計画　筆記テスト

《学科教育科目》

科 目 名	保育方法論				
担当者名	福田　規秀				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育のあり方や具体的な課題を、事例等との関連の中でともに考え理解を深めていく。そして子どもたちが充実し、しかもその時期にふさわしい園生活を送れるような保育環境や保育指導の方法について、学生間で意見を出し合い、それを実践に結びつける方策について考察を進めていく。

また環境構成については具体的や遊具や視聴覚教材を提示し、その利用法や新たな活用法についても理解を深められるようにする。

《授業の到達目標》

主体的に活動する子どもを援助し､子どもと一緒に保育を創る方法について､過去の知見や現代的な事例に触れながら考察する中で、保育方法についての基本的な考え方と自分なりの実践への手がかりを探究する。学生諸君はこの過程の中で、自らの子ども観、保育観を向上させ、実習で得た課題へのヒントを見いだすことが出来るはずである。

《テキスト》

『幼児教育の方法』小田豊・青田倫子編著（北大路書房　２００９）
『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館　２００８）

《参考文献》

『専門家の知恵』ドナルド・ショーン著　佐藤学・秋田喜代美訳（ゆみる出版　２００５）
『マインドストーム』シーモア・ペパート著　奥野貴世子訳（未来社　１９９５）
『幼稚園教育指導資料第３集　幼児理解と評価』文部科学省（チャイルド本社　２００５）
『幼稚園教育指導資料第４集　一人一人に応じる指導』文部科学省（フレーベル館　２００６）
その他授業中随時紹介する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（20%）と筆記試験（80%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。
授業回数の 1/3 を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

講義終了時に次回講義の予告を出来うる限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。
学びにはリフレクションが重要です。よってメモ等に基づき、講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。
適宜課題を出すので真面目に取り組んでください（例えば実習で出会った遊具についてのレポート、小さい頃に居心地のよかった場所についてのイメージ表現やメディアを駆使した課題の提出等)。

《備考》

全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。
保育原理Ａで購入した『最新保育資料集』『保育所保育指針解説書』を持参してもらうことがあります。
授業への積極的な参加（質疑応答等）をのぞむ。逆に授業進行や周囲への迷惑行為は厳禁である。
子どもとメディアについて柔軟な思考で対応できるよう情報を少しでも自分で収集しておくこと。講義に持参した遊具等は積極的に触ってください。
重ねて保育者になるにふさわしい出席・受講態度・事前準備を期待する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	授業のオリエンテーション、保育方法とは
第 ２ 週	環境を通しての保育
第 ３ 週	遊びを通しての保育
第 ４ 週	幼児の主体的な生活と保育
第 ５ 週	保育者の役割
第 ６ 週	遊びから学びを育む保育－感じる・気付く
第 ７ 週	遊びから学びを育む保育－友だちと関わる
第 ８ 週	プロジェクトアプローチとティーム保育
第 ９ 週	保育における評価
第１０週	小学校教育との連携
第１１週	家庭や地域との連携
第１２週	カウンセリングマインド
第１３週	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア
第１４週	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア
第１５週	まとめ・筆記試験

《学科教育科目》

科 目 名	乳児保育Ａ				
担当者名	徳永　満理				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

保育所・乳児院・家庭的保育等における「乳児保育」を学ぶ。
乳児保育の歴史から現状、課題を含め、保育所・乳児院・家庭的保育と保育者の役割及び乳児保育に必要な理論、知識、技術を学ぶ。
児童福祉法・母子保健法などにおいては、乳児は「満１歳に満たない者」と定義されているが、ここでは０、１、２歳児の発達と保育について学ぶ。

《授業の到達目標》

○乳児保育の歴史と役割を理解し、乳児保育の今日的な課題を考察する。
Ｏ０歳児（出生から）から２歳児（３歳半頃まで）の子どもの発達を理解する。
○乳児保育の保育内容について、実技を含めて理解する。

《テキスト》

『乳児の保育新時代』（ひとなる書房）
『保育所保育指針』
『保育資料集２０１１』森上史朗（ミネルバァ　２０１１）

《参考文献》

適宜、講義時に紹介する。

《成績評価の方法》

テスト（７０％）、課題提出（作品・レポート）（２０％）、授業中の態度（１０％）

《授業時間外学習》

手作りオモチャなどの作成を提起する。
乳児への読み聞かせのための絵本の選書と読み方の提起をする。

《備考》

１．演習科目につきクラス開講が原則である。
２．遅刻・欠席、授業中の態度等も評価の対象とする。
３．講義内容を参考にレポート提出等有り。提出期日を守ること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション 乳児の概念。乳児保育の概念。ビデオ“赤ちゃんからのメッセージ”
第 2 週	①乳児保育の歴史と現状 ②女性労働と乳児保育の関わり ③乳児保育への期待と課題
第 3 週	乳児の発達（1）　新生児　０歳児前半 母子関係の形成と人間らしさの発見
第 4 週	乳児の発達（2）　０歳児後半 ０歳児の発達の道すじと特徴
第 5 週	乳児の発達（3）　１歳児 １歳児の発達の道すじと特徴
第 6 週	乳児の発達（4）　２歳児 ２歳児の発達の道すじと特徴
第 7 週	０歳児の生活と保育者の関わり 食事、排泄、睡眠、衣生活、保健等
第 8 週	１、２歳児の生活と保育者の関わり 基本的生活習慣の自立
第 9 週	０、１、２歳児のあそびと保育者の関わり あそびいろいろ
第１０週	あそびの実践① 手作りオモチャの作成、絵本の読み聞かせ
第１１週	あそびの実践② 散歩マップ作成
第１２週	乳児保育と計画 デイリープログラム 保育携帯と保育の環境構成
第１３週	家庭との連携 保護者への援助、家庭・地域との連携方法
第１４週	乳児と家庭を取り巻く現状 地域の子育て支援を考える
第１５週	授業のまとめ

《学科教育科目》

科 目 名	障害児保育Ａ				
担当者名	柳田　洋				
授業方法	演習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	１年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
障害を理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について学ぶ。

《授業の到達目標》
障害の科学的な理解やひとの発達のすじみちを理解することによって、障害がある子どもたちについて理解を深めるとともに、発達を保障していくための保育場面でできる援助について考える。また、健常児との関わりや家庭･社会との連携の大切さについても保育者という実践者の立場から考えていく。

《テキスト》
『新版テキスト障害児保育』白石正久･近藤直子･中村尚子編（全障研出版部）

《参考文献》
『幼児の発達の基礎』加藤直樹･中村隆一編（全障研出版部）
『発達の扉 下 障害児の保育･教育･子育て』白石正久著（かもがわ出版）
『多動症の子どもたち』太田昌孝著（大月書店）
その他、授業中に適宜紹介する。

《成績評価の方法》
試験（テキスト･ノート等持ち込み可）。適宜、レポート等の提出を課す。
試験（50%）、授業後レポート（50%）で評価する。

《授業時間外学習》

《備考》
毎時間、出席表（感想･質問等を記入）の提出をもって出席を確認する。
提出物の期限は厳守し、返却されたものについては配付資料等とともにファイルしておくこと。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	障害があるということ、ないということ。発達のすじ道
第 2 週	さまざまな障害の理解①知的発達の障害
第 3 週	さまざまな障害の理解②情緒･社会性の障害
第 4 週	さまざまな障害の理解③身体･運動面の障害
第 5 週	さまざまな障害の理解④視覚･聴覚など感覚の障害
第 6 週	さまざまな障害の理解⑤内部障害
第 7 週	障害児保育について考える①知的発達の障害
第 8 週	障害児保育について考える②情緒･社会性の障害
第 9 週	障害児保育について考える③身体･運動面の障害
第１０週	障害児保育について考える④視覚･聴覚など感覚の障害
第１１週	障害児保育について考える⑤内部障害
第１２週	障害児保育のあゆみと現状･課題
第１３週	発達を支援する保育者として
第１４週	就学に向けて
第１５週	まとめ

平成 22 年度
(2010 年度)
入学者

平成23年度（2011年度）　学年暦〔Ⅰ期〕

保育科第一部2年生

23年	日		月		火		水		木		金		土	
4月											1		2	
	3	入学式	4		5		6		7		8	① Ⅰ期授業開始	9	
	10		11	①	12	①	13	①	14	①	15	②	16	② 木曜日科目授業日
	17		18	②	19	②	20	②	21	③	22	③	23	
	24		25	③	26	③	27	③	28	④	29	昭和の日	30	
5月	1		2	④	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	④	7	
	8		9	⑤	10	④	11	④	12	⑤	13	⑤	14	⑤ 水曜日科目授業日
	15		16	⑥	17	⑤	18	⑥	19	⑥	20	⑥	21	
	22		23	⑦	24	⑥	25	⑦	26	⑦	27	⑦	28	
	29		30	⑧	31	⑦	1	⑧	2	⑧	3	⑧	4	
6月	5		6	⑨	7	⑧	8	⑨	9	⑨	10	創立記念日	11	⑨ 金曜日科目授業日
	12		13	保育所参加指導実習	14	保育所参加指導実習	15	保育所参加指導実習	16	保育所参加指導実習	17	保育所参加指導実習	18	保育所参加指導実習 オープンキャンパス
	19		20	保育所参加指導実習	21	保育所参加指導実習	22	保育所参加指導実習	23	保育所参加指導実習	24	保育所参加指導実習	25	保育所参加指導実習
	26		27	⑩	28	⑨	29	⑩	30	⑩	1	⑩	2	
7月	3		4	⑪	5	⑩	6	⑪	7	⑪	8	⑪	9	⑪ 火曜日科目授業日
	10		11	⑫	12	⑫	13	⑫	14	⑫	15	⑫	16	⑬ 月曜日科目授業日
	17		18	海の日	19	⑬	20	⑬	21	⑬	22	⑬	23	オープンキャンパス
	24	オープンキャンパス	25	⑭	26	⑭	27	⑭	28	⑭	29	⑭	30	予備日
	31		1	⑮	2	⑮	3	⑮	4	⑮	5	⑮	6	オープンキャンパス
8月	7	オープンキャンパス	8		9		10		11		12		13	
	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	オープンキャンパス
	28	オープンキャンパス	29		30		31		1		2		3	
9月	4		5		6		7		8		9		10	オープンキャンパス
	11		12		13		14		15		16		17	

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

平成23年度（2011年度）　学年暦　〔Ⅱ期〕

保育科第一部2年生

23年	日		月		火		水		木		金		土	
9月	11		12		13		14		15	① Ⅱ期授業開始	16	①	17	① 月曜日科目授業日
	18		19	敬老の日	20	①	21	①	22	②	23	秋分の日	24	② 金曜日科目授業日
	25		26	②	27	②	28	②	29	③	30	③	1	
10月	2		3	幼稚園参加指導実習	4	幼稚園参加指導実習	5	幼稚園参加指導実習	6	幼稚園参加指導実習	7	幼稚園参加指導実習	8	幼稚園参加指導実習
	9		10	体育の日	11	幼稚園参加指導実習	12	幼稚園参加指導実習	13	幼稚園参加指導実習	14	幼稚園参加指導実習	15	幼稚園参加指導実習
	16		17	幼稚園参加指導実習	18	幼稚園参加指導実習	19	幼稚園参加指導実習	20	幼稚園参加指導実習	21	幼稚園参加指導実習	22	幼稚園参加指導実習
	23	入学試験実施	24	③	25	③	26	③	27	④	28	④	29	④ 水曜日科目授業日
	30		31	④	1	④	2	⑤	3	文化の日	4	⑤	5	入学試験実施
11月	6	入学試験実施	7	⑤	8	⑤	9	⑥	10	⑤	11	大学祭準備（予定）	12	大学祭（予定）
	13	大学祭（予定）	14	大学祭後片付（予定）	15	⑥	16	⑦	17	⑥	18	⑥	19	⑥ 月曜日科目授業日
	20		21	⑦	22	⑦	23	勤労感謝の日	24	⑦	25	⑦	26	⑧ 金曜日科目授業日
	27		28	⑧	29	⑧	30	⑧	1	⑧	2	⑨	3	⑨ 木曜日科目授業日
12月	4		5	⑨	6	⑨	7	⑨	8	⑩	9	⑩	10	
	11		12	⑩	13	⑩	14	⑩	15	⑪	16	⑪	17	⑪ 水曜日科目授業日
	18		19	⑪	20	⑪	21	⑫	22	⑫	23	天皇誕生日	24	
	25		26	⑫	27	⑫	28		29		30		31	
23年 1月	1	元旦	2	振替休日	3		4		5		6	⑫	7	⑬ 金曜日科目授業日
	8		9	成人の日	10	⑬	11	⑬	12	⑬	13	センター試験準備	14	センター試験
	15	センター試験	16	⑬	17	⑭	18	⑭	19	⑭	20	⑭	21	
	22		23	⑭	24	⑮	25	⑮	26	⑮	27	⑮	28	予備日
	29		30	⑮	31	補講日	1		2		3		4	入学試験実施
2月	5	入学試験実施	6		7		8		9		10		11	建国記念の日
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23		24		25	
	26		27		28		29		1		2		3	
3月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19		20	春分の日	21		22		23	卒業式	24	
	25		26		27		28		29		30		31	

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

カリキュラム年次配当表

保育科第一部　平成22年度（2010年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当（数字は週当り授業時間）				備考	ページ
							1年		2年			
			必修	選択			Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習		2	◇		2				☆	基礎・教養科目編参照
	英語	演習		2	◆	●	2				☆	
	コンピュータ演習	演習		2	◆		2				☆	
教養科目	宗教と人生	講義	2				2					
	文学	講義		2				2				
	色彩学	講義		2			2					
	日本国憲法	講義		2	◆			2				
	ジェンダー論	講義		2			2					
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2	◆	●		②		②		
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1	◇	●	②		②		☆☆	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1				②		②	☆☆	

（注意）◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。
●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。
※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。
※備考欄の☆☆は、学則第23条第1項第3号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

保育科第一部　平成22年度（2010年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当り授業時間) 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	備考	ページ
学	音楽教育A	演習	1				2					
	音楽教育B	演習		1	◆	○		2				
	音楽教育C	演習		1		○			2			60
	音楽教育D	演習		1		○				2		61
	器楽A	演習		1	◆	●	2					
	器楽B	演習		1	◆	○		2				
	造形A	演習	1				2					
	造形B	演習		1	◆	○		2				
	幼児体育A	演習	1				2					
	幼児体育B	演習		1	◆	○		2				
	算数	講義		2	◇						不開講	
	生活概論	講義		2	◇						不開講	
	小児保健A	講義		2		●	2					
	小児保健B	講義		2		●		2				
科	小児保健実習	実習		1		●			2			62
	小児栄養	演習		2		●			2		☆	63
	精神保健	講義		2		●				2		64
	家族援助論	講義		2		●				2		65
	社会福祉	講義	2						2			66
	社会福祉援助技術	演習		2		●				2	☆	67
	児童福祉	講義		2		●	2					
	教育原理	講義	2						2			68
教	保育原理ⅠA	講義	2				2					
	保育原理ⅠB	講義		2		●				2		69
	保育原理Ⅱ	講義		2		○				2		70
	養護原理Ⅰ	講義		2		●		2				
	養護原理Ⅱ	講義		2		○				2		71
	教育実習	実習		5	◆			5				72, 73
	保育実習Ⅰ	実習		5		●	5					
育	保育実習Ⅱ	実習		2		●			2			74
	保育実習Ⅲ	実習		2							不開講	
	教育心理学	講義		2	◇	●			2			75
	発達心理学	講義	2				2					
	児童心理学	講義		2	◆	○		2				
	青年心理学	講義		2		○				2		76
	臨床心理学	演習		2		○		2			☆	
	教育制度論	講義		2	◆				2			77
科	教師論	講義	2							2		78
	保育課程総論	講義	2				2					
	保育内容・健康	演習		2	◆	●			2		☆	79
	保育内容・人間関係	演習		2	◆	●		2			☆	
	保育内容・環境	演習		2	◆	●			2		☆	80
	保育内容・言葉	演習		2	◆	●		2			☆	
	保育内容・表現Ⅰ	演習		2	◆	●			2		☆	81
目	保育内容・表現Ⅱ	演習		2	◆	●		2			☆	
	保育方法論	講義		2	◆			2				
	養護内容	演習		1		●			2			82
	乳児保育Ⅰ	演習		2		●	2				☆	
	乳児保育Ⅱ	演習		2		○				2	☆	83, 84
	障害児保育	演習		1		●		2				
	教育相談	講義		2	◆					2		85
	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		2	◆	●				2	☆	86

（注意）◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。
●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科 目 名	音楽教育Ｃ				
担当者名	中島　龍一				
授業方法	演習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	２年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》
幼児教育者として必要な音楽の基礎知識と技術力を高めるために、幅広い音楽表現の研究をする中で、保育現場に必要な様々な応用力を身につける。

《授業の到達目標》
保育の現場で求められる望ましい保育者となるためには、活動の結果や技術面ばかりに目を向けるのではなく、子どもが表現しようとする意欲を温かく受け止め、表現する喜びや感動する心を育てていかなければならない。そのために本科目において、１年次「音楽教育Ａ・Ｂ」で習得したものを基に更に広げていく研究をする。また、きかせてあげたい子どもの歌並びにコード奏法による子どもの歌をできるだけ多くマスターする。

《テキスト》
『おんがく玉手箱』伊藤嘉子・中島龍一　編著（共同音楽出版社）
『すいかとかぼちゃのロックンロール』伊藤嘉子・中島龍一　編著（共同音楽出版社）
『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一　編著（共同音楽出版社）※１年次で使用したテキスト

《参考文献》
『子どもの歌から広がる音楽表現』(伊藤嘉子・中島龍一他　編著／共同音楽出版社)
『手あそび歌あそび６０』(伊藤嘉子　編著／音楽之友社)
『手話によるメッセージソングベスト２５』(伊藤嘉子　編著／音楽之友社)
その他必要に応じて印刷物を配布する。

《成績評価の方法》
１．授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない。
２．平常の授業態度や課題に取り組む意欲を重視し、個性ある表現力を評価の対象とする。
３．自分の音楽能力を客観的に把握し、自分に足りない能力を開発しようとする積極的な態度も考慮する。
４．音楽表現（40%）、弾きうたい（30%）、授業への取り組む姿勢（30%）で評価。

《授業時間外学習》
使用テキストの指定個所を読み、練習しておくこと。
授業後、おこなった実践をより自身のものとするための練習をすること。

《備考》
講義室の使用上の注意事項は必ず守ること。特に飲食物の持ち込み、携帯電話の使用禁止。
鍵盤楽器やその他楽器使用における取扱いの注意事項について厳守すること。
授業終了時には、次の使用者のために清潔を常に心掛けること。
将来保育者となるための常識を心し、言葉遣い、礼儀、身なり等にも配慮して受講すること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	Ｉ期１５回の授業内容の説明と使用するテキストについての説明。毎回授業での初めのテーマソングを決めてうたう。
第 2 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／ドラムジカへの準備（1）
第 3 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／絵描き歌（1）／ドラムジカへの準備（2）
第 4 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／絵描き歌（2）／ドラムジカへの準備（3）
第 5 週	ドラムジカ研究発表会
第 6 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／音楽身体表現（1）
第 7 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／音楽身体表現（2）
第 8 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／音楽身体表現（3）
第 9 週	音楽身体表現研究発表会
第１０週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／紙工作（1）
第１１週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／紙工作（2）
第１２週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／子どもの歌創作絵本作成（1）
第１３週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／子どもの歌創作絵本作成（2）
第１４週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／子どもの歌創作絵本作成（3）
第１５週	子どもの歌創作絵本研究発表会と音楽教育Ｃの総まとめ

《学科教育科目》

科 目 名	音楽教育Ｄ				
担当者名	中島　龍一				
授業方法	演習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
幼児教育者として必要な音楽の基礎知識と技術力を高めるために、幅広い音楽表現の研究をする中で、保育現場に必要な様々な応用力を身につける。

《授業の到達目標》
保育の現場で求められる望ましい保育者となるためには、活動の結果や技術面ばかりに目を向けるのではなく、子どもが表現しようとする意欲を温かく受け止め、表現する喜びや感動する心を育てていかなければならない。そのために本科目において、Ⅰ期「音楽教育Ｃ」で習得した知識・技術を更に高度なものへと広げていく研究をする。また、きかせてあげたい子どもの歌並びにコード奏法による子どもの歌をできるだけ多くマスターする。

《テキスト》
『おんがく玉手箱』伊藤嘉子・中島龍一　編著（共同音楽出版社）
『すいかとかぼちゃのロックンロール』伊藤嘉子・中島龍一　編著（共同音楽出版社）
『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一　編著（共同音楽出版社）※１年次で使用したテキスト

《参考文献》
『子どもの歌から広がる音楽表現』(伊藤嘉子・中島龍一他　編著／共同音楽出版社)
『手あそび歌あそび６０』(伊藤嘉子　編著／音楽之友社)
『手話によるメッセージソングベスト２５』(伊藤嘉子　編著／音楽之友社)
その他必要に応じて印刷物を配布する。

《成績評価の方法》
１．授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない。
２．平常の授業態度や課題に取り組む意欲を重視し、個性ある表現力を評価の対象とする。
３．自分の音楽能力を客観的に把握し、自分に足りない能力を開発しようとする積極的な態度も考慮する。
４．音楽表現（40%）、弾きうたい（30%）、授業への取り組む姿勢（30%）で評価。

《授業時間外学習》
使用テキストの指定個所を読み、練習しておくこと。
授業後、おこなった実践をより自身のものとするための練習をすること。

《備考》
講義室の使用上の注意事項は必ず守ること。特に飲食物の持ち込み、携帯電話の使用禁止。
鍵盤楽器やその他楽器使用における取扱いの注意事項について厳守すること。
授業終了時には、次の使用者のために清潔を常に心掛けること。
将来保育者となるための常識を心し、言葉遣い、礼儀、身なり等にも配慮して受講すること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	Ⅱ期１５回の授業内容の説明と使用するテキストについての説明／「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。
第 2 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／紙工作（3）
第 3 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／紙工作（4）
第 4 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／手作りゲーム（1）
第 5 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／手作りゲーム（2）
第 6 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／手作りゲーム（3）
第 7 週	グループによる歌研究発表会
第 8 週	楽器の知識と使用方法についての説明／器楽アンサンブル（1）／合唱練習（1）
第 9 週	器楽アンサンブル（2）／合唱練習（2）
第１０週	器楽アンサンブル（3）／合唱練習（3）
第１１週	器楽アンサンブル研究発表会
第１２週	合唱練習（4）
第１３週	合唱練習（5）
第１４週	合唱練習（6）
第１５週	合唱研究発表会と音楽教育Ｄの総まとめ

《学科教育科目》

科 目 名	小児保健実習				
担当者名	宮崎　千尋				
授業方法	実習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	２年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
保育士は、子どもの発育・発達状態、健康状態を正しく把握し、保育中の子どもの健康を守りつつ保育する責任がある。
「小児保健」で学んだ「小児を心身の病気から守り、健全に発育させる」という理論をふまえ、保育所・乳児院などの児童福祉施設、あるいは幼稚園その他保育の場において、これを実践できる応用能力と技術を習得することを目指す。

《授業の到達目標》
１．小児の生理的な特徴を理解し、その観察方法や測定技術が習得できる。
２．日課に必要な養護技術が習得できる。
３．事故防止と安全教育の行い方を理解し、説明出来る。
４．乳幼児看護および救命処置と応急手当技術が習得出来る。

《テキスト》
「小児保健実習」　佐藤益子　編著　　みなみ書房

《参考文献》
「小児看護実習ガイド」　筒井真優美　監修　　照林社
「小児保健の基礎知識」　日本保育園保健協議会編集　　日本小児医事出版社

《成績評価の方法》
筆記試験　70％（テキスト及び配布資料の持ち込みは可とする）
授業内実習　30％（実習への参加度および実習試験によって評価する）
※授業実施回数の 1／3 以上を欠席した者は成績評価の対象とならず単位は与えない。

《授業時間外学習》
・予習、復習の方法
実習には、実習に関する授業内容を復習し、実習の概要・必要物品・手順について理解を深め、臨んで下さい。

《備考》
・授業内実習が主になるので出席して経験することに重点をおきます。
・授業には実習、実技にふさわしい服装で臨み、指示されたことは守り、事故防止に努めて下さい。
・実習の準備、終了後の後片づけは協力してきっちりと行うように注意して下さい。
・授業時間の 1／3 を越えた遅刻は、欠席とみなします。
・他の学生への迷惑になるような私語等による授業妨害は退室してもらいます。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	小児保健実習の目的・目標・内容　、援助技術の基本
第 2 週	小児の健康状態の観察と記録
第 3 週	小児の身体発育と身体測定及び評価　（体重・胸囲・座高・頭囲・下肢長・視力・聴力等）　《実習》
第 4 週	小児の生理機能の測定と評価　（体温・脈拍・呼吸の測定）　小児の精神・運動機能の発達　《実習》
第 5 週	乳幼児の養護（抱き方・背負い方・睡眠・排泄・食事・清潔の援助・外気浴・あやし方等）　《VTR 視聴・演習》
第 6 週	乳幼児の養護（抱き方・背負い方・排泄・清潔の援助・食事・外気浴）　《実習》
第 7 週	乳幼児の養護（身体の清潔：沐浴）　《実習》
第 8 週	小児の看護（1）よく起こる症状に対する看護
第 9 週	小児の看護（2）よく起こる病気に対する看護
第１０週	乳幼児の事故の現状と応急処置　　小児の救急処置　《VTR 視聴》
第１１週	小児の救急処置（起きやすい事故の応急処置、心肺蘇生法）　《VTR 視聴・演習》
第１２週	小児の救急処置（1）起きやすい事故の応急処置　《実習》
第１３週	小児の救急処置（2）心肺蘇生法　《実習》
第１４週	感染予防対策　・　危機管理
第１５週	学習のまとめ

《学科教育科目》

科 目 名	小児栄養				
担当者名	大西　光子				
授業方法	演習	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
小児期の食生活は、子どもの身体の健康や心の健康に重要な役割を果たしている。
小児期に食生活の基礎をきちんと築き、将来の健康につながる正しい食習慣や、望ましい食習慣を身につけることが大切である。
子どもの健やかな成長には、栄養と食生活が重要であることを理解し、
①体に必要な栄養素の働きを知り、
②自分自身が望ましい食生活が実践でき、
③子どもの発達段階に適した栄養と食生活に関する知識を習得し、正しい食指導ができる能力を身につける。

《授業の到達目標》
・栄養に関する基本的知識を習得する。
・子どもの身体の特徴を理解し、子どもの成長発達に適した望ましい食生活が指導出来るよう理解を深める。

《テキスト》
最新小児栄養　第５版　編集 飯塚美知子・桜井幸子　学建書院

《参考文献》

《成績評価の方法》
筆記試験（70%）　レポート（30%）

《授業時間外学習》
・次回の授業に向けて教科書をよく読んでおいてください。
・授業で学んだことを振り返り、授業内容を再確認してください。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	小児の健康な生活と食生活の意義
第 ２ 週	小児の発育・発達—精神・運動機能、そしゃく機能、消化吸収機能の発達
第 ３ 週	栄養に関する基本的知識—炭水化物・脂質・たんぱく質の栄養
第 ４ 週	栄養に関する基本的知識—無機質・ビタミンの栄養
第 ５ 週	栄養に関する基本的知識—食物の消化・栄養素の吸収と代謝
第 ６ 週	栄養に関する基本的知識—食事摂取基準・消費エネルギーの計算
第 ７ 週	栄養に関する基本的知識—・献立のたて方・調理、献立作成
第 ８ 週	妊娠・授乳期の食生活
第 ９ 週	乳児期の食生活—母乳栄養
第１０週	乳児期の食生活—人工栄養・混合栄養・離乳食の進め方
第１１週	幼児期の食生活—実習　調乳
第１２週	幼児期の食生活—食事バランスガイド
第１３週	学童期・思春期の食生活 小児期の疾病と食生活
第１４週	障がいがある小児の食生活 児童福祉施設における食生活
第１５週	まとめ

《学科教育科目》

科 目 名	精神保健				
担当者名	古賀　愛人				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育に携わるうえで、胎生期から思春期に至る発達と精神保健に関する基本的知識を学び、こころの健康保持増進とこころの不健康の予防に役立つようになることをめざします。

《授業の到達目標》

○こころの健康・不健康とは何かを説明できる。
○健全な発達と発達上の問題点を説明できる。
○子どもの発達障害と問題行動を理解し、その対応ができるようになる。

《テキスト》

改訂３版・保育士養成講座　第４巻
　　精神保健　改訂・保育士養成講座編纂委員会　社会福祉法人社会福祉協議会　　2005

《参考文献》

介護福祉士養成講座⑩
　　精神保健　福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版

《成績評価の方法》

授業中の態度、討論への参加度 20%と試験 80%による総合評価。

《授業時間外学習》

シラバス（授業計画）により、テキストを予習しておくことが必要である。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	保育における精神保健
第 ２ 週	精神保健　―こころの発達と健康
第 ３ 週	胎児期のこころの発達と精神保健活動
第 ４ 週	乳児期の発達と精神保健活動
第 ５ 週	幼児期の発達と精神保健活動
第 ６ 週	学童期・思春期の発達と精神保健活動
第 ７ 週	乳幼児精神医学と発達障害
第 ８ 週	ことばの障害
第 ９ 週	多動性障害・強迫性障害
第１０週	習癖障害
第１１週	子どものうつ病・睡眠障害
第１２週	登園拒否・児童虐待
第１３週	保育所・地域における精神保健活動
第１４週	障害児保育
第１５週	まとめ講義

《学科教育科目》

科 目 名	家族援助論				
担当者名	若林　宏子				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
保育士資格の法定化（2001 年）にともない、2002 年から保育士養成課程も改正されることになり「家族援助論」が創設されることになった。よりよい保育を行うためには、保育所に通う児童、及び保育所周辺の子ども達を視野に入れた援助が必要である。保育所の社会的役割の一つである「子育て支援」の観点から、児童とその家族に対する保育のあり方について考察する。子育て支援については現代の課題でもあることを考慮し、総合的に実態を把握したものを資料とし子育て支援のあるべき方向をめざしたい。

《授業の到達目標》
今子育て支援に求められていることを学び、子育てのサポーターとしての役割を充実する。

《テキスト》
『家族援助論』（全国社会福祉協議会）

《参考文献》
『子育て支援の現在』垣内国光・桜谷真理子編著（ミネルヴァ書房）
『子どもの発達と子育て・子育て支援』丸山美和子（かもがわ出版）
『家族援助論』保育ライブラリ（北大路書房）
『家族援助論』松村和子、澤江幸則、神谷哲司（建帛社）
『保育福祉小六法』『保育所保育指針』

《成績評価の方法》
課題レポート（４０％）、総合テスト（60％）で評価する。

《授業時間外学習》
子育て支援の実際について調査しレポートをする。

《備考》
必要に応じてビデオ等を使用し、受講生の理解がより深まるように心がけたい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	家族とは何か
第 2 週	現代社会と家族
第 3 週	現代社会と人間関係
第 4 週	児童を取りまく社会的環境
第 5 週	児童に対する理解
第 6 週	子育ての実態と課題
第 7 週	子育て支援に求められていること
第 8 週	育児支援政策の現状
第 9 週	子育て支援の現状と課題
第１０週	子育て支援の意義
第１１週	子育て支援の活動
第１２週	子育てに対する相談援助活動
第１３週	児童虐待の現状と課題及び援助
第１４週	家庭と養護・保育現場との連携
第１５週	家族援助の実際

《学科教育科目》

科 目 名	社会福祉				
担当者名	藤野　ゆき				
授業方法	講義	単位・必選	２・必	開講年次・開講期	２年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

現代社会における社会福祉の意義・理念について学び、社会福祉の歴史のあゆみを通して今日までの社会福祉の発展のプロセスを理解する。さらに、社会福祉の法体系、制度及び行財政の仕組みを知り、社会福祉サービス体系における公私の役割や活動についても詳しく学ぶ。社会福祉の価値観や倫理性および福祉専門職の役割等についても理解を深め、子どもに対する専門職(保育士)としての資質を高める。

《授業の到達目標》

社会福祉の意義、理念について考えることができる。
社会福祉の法制度、体系を踏まえた上で、社会福祉援助技術を実行できる。

《テキスト》

新　保育ライブラリ　保育・福祉を知る　社会福祉　　編著者　片山義弘　李木明徳
北大路書房　2009 年

《参考文献》

必要に応じて随時紹介する。

《成績評価の方法》

毎回の講義ごとの小レポート 40%、　試験　60%

《授業時間外学習》

次回講義予定範囲の予習し、受講に対する考えをまとめておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	現代社会と社会福祉の意義①社会福祉の理念と概念　社会福祉の対象と主体
第 2 週	現代社会と社会福祉の意義②社会福祉のニーズの変容
第 3 週	社会福祉専門職　社会福祉従事者の概要　専門性と倫理　関連する専門職
第 4 週	社会福祉の法体系と実施体系①社会福祉の実施体系　社会福祉の各分野
第 5 週	社会福祉の法体系と実施体系②実施体制と公私の役割
第 6 週	社会福祉の法体系と実施体系③社会福祉の財政と費用負担
第 7 週	社会福祉の動向①高齢者福祉
第 8 週	社会福祉の動向②障害者福祉
第 9 週	社会福祉の動向③ボランティア活動
第１０週	社会福祉援助技術①社会福祉援助技術の発展
第１１週	社会福祉援助技術②社会福祉援助技術の形態
第１２週	社会福祉援助技術③社会福祉援助技術の動向
第１３週	利用者保護制度の概要①利用者保護制度の目的と仕組み
第１４週	利用者保護制度の概要②第三者評価と情報提供
第１５週	まとめ

《学科教育科目》

科 目 名	社会福祉援助技術				
担当者名	大西 雅裕、丸目満弓　※クラスにより担当者が異なります				
授業方法	演習	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会福祉援助(ソーシャルワーク)を行うにあたっては、知識はもちろんのこと、必要となる態度や求められる姿勢を身につけることも大切である。

授業では、講義方式とロールプレイやワークなどを取り入れた演習方式を組み合わせることにより、頭で理解すると同時に体感することをめざす。

《授業の到達目標》

① 社会福祉援助技術の基本的な知識を身につける。
② 保育場面において社会福祉援助技術がどのように必要とされているかを理解できる。
③ 社会福祉援助技術に必要な実践力を身につける。

《テキスト》

特になし。適宜プリントを配布する。

《参考文献》

授業中に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

筆記試験　50%
毎回講義後に提出するミニレポート　30%、
授業中のワークや適宜出される提出課題への取り組み　20%
総合的な評価を行う

《授業時間外学習》

新聞は“生きた教科書”です！例えば世の中が日々どう動いているか、それが保育とどのように関連しているのかを理解するために、新聞に目を通し、各々が興味をもった記事をピックアップして授業に参加してほしいと考えています。詳細はオリエンテーションでお伝えします。

《備考》

授業では受身でなく、自分の頭で考え、それを文字や言葉で人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加してください！

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	変化する子育て環境と社会福祉援助(ソーシャルワーク)
第 3 週	ソーシャルワークの体系
第 4 週	ソーシャルワークの価値・倫理
第 5 週	ソーシャルワークに必要な知識・技能
第 6 週	ソーシャルワークの展開過程
第 7 週	ソーシャルワークの原則
第 8 週	ソーシャルワークが必要とされる機関・施設と担い手
第 9 週	自己覚知～援助者としての自分を知る～
第１０週	コミュニケーション技法を身につける(言語的コミュニケーション)
第１１週	コミュニケーション技法を身につける(非言語的コミュニケーション)
第１２週	面談技術を身につける(1)
第１３週	面談技術を身につける(2)
第１４週	グループワークの枠組み
第１５週	総括、筆記試験

《学科教育科目》

科 目 名	教育原理				
担当者名	三浦　摩美				
授業方法	講義	単位・必選	２・必	開講年次・開講期	２年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》
人間が成長発達する過程には、必ず「教育」の営みが介在していると言える。この、「教育」という人間の営みについて、できるだけ多角的な視点から理解を深めることができるようにする。具体的なテーマとして、まず、人間にはなぜ教育という営みがあるのか、つまり、人間にとっての教育の必要性と役割そして教育の目的と意義について、教育に関連する他の領域の知見も参考にしつつ、学際的な観点から洞察を深め理解できるようにしたい。またそれとともに、これまでどのような考えや方法原理によって教育活動が行われてきたのかという教育の歴史を学ぶことで、現在とこれからの教育の課題についても考察できるように努める。

《授業の到達目標》
・教育の意義、必要性、役割、目的について、学際的・理論的な観点から理解できるようにする。
・学習の形態や方法原理を知る。
・教育の歴史および理念について、体系的に把握できるようにする。
・現代教育の問題と課題について洞察を深めることができるようにする。
・人間形成の基礎を築く時期にある幼児教育の役割や意義について、とくに理解が深まるようにする。

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考文献》
そのつど紹介する。

《成績評価の方法》
平常のレポートその他の提出物(30%)、学期末のテスト(70%)で評価する。

《授業時間外学習》
・配布資料等を熟読し、学習内容の定着を図る。
・授業内で紹介された参考図書や資料を読み、問題の背景や応用的な内容が理解できるようにする。
・現代の教育問題についてメディア等を通して情報資料を収集し、自分なりの意見をまとめることができるようにする。
・出された課題に取り組み、期日に提出するようにする。

《備考》
・授業の進行に関して、変更が生じる場合がある。
・授業中の私語や携帯の使用を厳禁とする。
・レポート提出の際は、ホッチキス止めをする。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	教育の必要性と適時性 乳幼児期の特性と教育の役割、意義に関する認知論的アプローチ
第 2 週	教育の必要性の根拠 教育人間学、生物学的人間学的アプローチ
第 3 週	教育の目的 哲学的人間学からみた教育の目的および教育法規、教育要領に定められた教育の目的
第 4 週	西欧における教育の理念と実践の歴史
第 5 週	古代から中世までの教育理念と実践の歴史
第 6 週	中世の教育理念と実践の歴史
第 7 週	近代の教育理念と実践の歴史
第 8 週	教育方法の基本原理と学習形態の歴史(1)
第 9 週	教育方法の基本原理と学習形態の歴史(2)
第１０週	日本における教育の理念と実践の歴史
第１１週	明治以前の教育観と教育施設
第１２週	明治期の教育観と学習形態
第１３週	大正から昭和初期の教育観と学習形態
第１４週	現代の教育課題
第１５週	まとめ・学期末テスト

《学科教育科目》

科 目 名	保育原理ＩＢ				
担当者名	福田　規秀				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育についての理解が少しでも進むと現実を知り、壁にぶつかるものである。それを乗り越えるのは他の誰でもなく自分である。この講義では挑発的に学生諸君に問題を突きつけつつ、それを自分自身の課題と捉えられよう様々な事例を紹介し、ひとりの人間としてどうそれに向き合っていくかについて考えていく。また他者がどう考えるかを知ることも重要なねらいである。

《授業の到達目標》

保育原理ＩＡに引き続く科目である。ＩＡを基礎的知識として保育の現状と課題をより広範囲に探り、実態の認識を通して保育者として望ましい人間性の育成を目指す。保育者は子どもとのかかわりだけでなく、保護者や地域の人々、同僚という大人とのかかわりも欠かせない。そのことへの自覚、自己改善も大切な目標となる。

《テキスト》

『新・保育原理』－すばらしき保育の世界－（みらい　２００９）
『保育所保育指針解説書』厚生労働省編（フレーベル館　２００８）　　両方とも１年次に購入スミ

《参考文献》

『保育者の職能論』田中亨胤他編著（ミネルヴァ書房　２００６）
『親子ストレス』汐見稔幸（平凡社新書　２０００）
『ケアの本質』ミルトン・メイヤロフ　田村真・向野宣之訳（ゆみる出版　２００８）
『２１世紀の子育て支援・家庭支援』伊志嶺美津子・新澤誠治（フレーベル館　２００３）
その他授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（20%）と筆記試験（80%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。
授業回数の 1/3 を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

講義終了時に次回講義の予告を出来うる限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。
学びにはリフレクションが重要です。よって講義内容を教科書を参考にしながら、自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。
適宜課題を出すので真面目に取り組んでください（例えば自分の望む子育て支援策についてのレポートやネットを利用した情報収集、メディアを駆使したレポート課題の提出等）。

《備考》

全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。
法令を見ることもあるので、１年次に購入した『最新保育資料集』や『幼稚園教育要領解説』を必要に応じ持参のこと。
子どもに関する情報を様々なメディアを通じて自分でも収集することに努めること。その一環での講義への事例提供を歓迎する。
最後にまた原理？？ではなく、今まで学んだことを基に是非自分なりの保育観を考えつつ受講してほしい。また他人の意見を尊重する姿勢も大切である。講義の中では、考えるための素材として視聴覚教材を用いることがあるが、積極的に視聴し自己の糧とすること。
受講に際しては、保育者にふさわしい出席・態度・準備を要求する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	授業のオリエンテーション、保育課程・教育課程について－計画とは
第 ２ 週	保育課程・教育課程について－その実際
第 ３ 週	計画と評価
第 ４ 週	子どもの健康と安全－食育
第 ５ 週	子どもの健康と安全－感染症
第 ６ 週	健康安全と多様な子どもへの対応
第 ７ 週	多様化する保育ニーズ－誰のためのものか？
第 ８ 週	子育て家庭支援－なくてはならないもの
第 ９ 週	子育て家庭支援－これから
第１０週	育ちや学びの連続性－連携
第１１週	育ちや学びの連続性
第１２週	保育者の専門性－現状
第１３週	保育者の専門性－専門性とは
第１４週	保育の現状と課題－保育の質の保証
第１５週	まとめ・筆記試験

《学科教育科目》

科 目 名	保育原理Ⅱ				
担当者名	三浦　摩美				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
保育施設設立の歴史と保育内容の変遷史について理解するとともに、歴史的に行われてきた保育実践および現代の保育活動と幼児理解について考察する。とくに、明治期から大正・昭和の保育施設で行われていた保育内容や保育形態の変遷、新教育の流れとともに発展した児童文化、そして、歴史的に保育界を導いてきたいくつかの保育形態の実践例について学ぶことで、今日の保育活動のなかの保育教材と幼児の育ちのかかわりについて考える機会としたい。それによって、今日の多様な保育形態がどのように形成されてきたかについて理解し、それがどのように幼児の育ちにつながるかについて洞察することができるよう努めたい。

《授業の到達目標》
・保育施設設立の時代的要請と保育に課せられた役割について学び、保育の意義を現時点の自己なりに捉え明日への課題をもつための姿勢を獲得する。
・現代の保育活動の事例研究を通して、幼児理解のためのいくつかの視点が発見できるようにする。
・保育形態について学ぶことで、保育形態を保育実践へとつなげていくという意識がもてるように努める。
・各保育実践家の保育観に支えられた保育実践と教材の用い方について理解する。

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考文献》
必要に応じて紹介する。

《成績評価の方法》
平常の提出物(50%)および学期末の小テスト(50%)で評価する。

《授業時間外学習》
・配布資料等を熟読し、学習内容の定着を図る。
・授業内で紹介された参考図書や資料を読み、理解を広げるようにする。
・出された課題に取り組み、期日に提出するようにする。

《備考》
・授業中の携帯や私語は厳禁とする。
・シラバスの内容や展開に変更が生じる場合がある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	現在の保育活動と幼児理解の事例研究(1)
第 2 週	現在の保育活動と幼児理解の事例研究(2)
第 3 週	西欧における保育事業の創設と展開
第 4 週	日本の保育施設草創期(明治期)の保育内容と保育形態(1)
第 5 週	日本の保育施設草創期(明治期)の保育内容と保育形態(2)
第 6 週	大正・昭和期の新教育運動の流れと児童文化の創始
第 7 週	大正・昭和期の新教育運動の流れと保育形態(1)
第 8 週	大正・昭和期の新教育運動の流れと保育形態(2)
第 9 週	フレーベル主義の保育実践と幼児理解
第１０週	モンテッソーリ主義の保育実践と幼児理解
第１１週	シュタイナー主義の保育実践と幼児理解
第１２週	保育の課題(1) 生活と遊びの課題
第１３週	保育の課題(2) 健康・安全教育の取り組み
第１４週	保育の課題(3) 環境と保育
第１５週	まとめと小テスト

《学科教育科目》

科 目 名	養護原理Ⅱ				
担当者名	杣山　貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「障害者権利条約」,「インクルージョンの推進」,「『気になる子』の増加」を背景に,「合理的配慮」の考え方が重要になってきています。本講義では障がいのある子どもが大人へと成長する過程をひとつの流れとして捉え，その流れの端緒となる就学前に関わることの多い保育士の役割について考えます。特に，就学前の発達障がい児への対応，将来地域の中で生活するための社会環境整備と,社会資源の活用とその開発について，また，保護者への具体的支援方法について，視聴覚教材を活用し学習します。

《授業の到達目標》

発達障がい及び知的障がいのある子どもについて理解し，その援助方法を具体的に考え，実践できることを目指します。

《テキスト》

プリントの配布を予定しています。

《参考文献》

授業中に紹介します。

《成績評価の方法》

授業内課題（授業時間内に課すレポート）（80%）、テスト（20%）で評価します。但し，受講生数によって若干変更することがあります。

《授業時間外学習》

図書館を活用し，紹介した参考図書を読み，レポートの作成に役立ててください。

《備考》

保育実習Ⅰ，Ⅱを修得していることを受講の要件とします。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	子どもの人権の尊重 本講義の目的と保育士資格との関連性，授業の基本となる理念，子どもの人権について
第 2 週	「障害者権利条約」　《DVD 視聴》 「障害者権利条約」の理解，教育の場における「合理的配慮」
第 3 週	障がい者福祉の現状 施設での生活から地域社会での生活へ，企業の知的障がい者雇用の実際，就学前から始める療育の有用性
第 4 週	知的障がい者の福祉的就労　《DVD 視聴》 自立した生活，地域社会での生活の意義
第 5 週	スウェーデンの知的障がい者福祉の歩み《DVD 視聴》 施設からグループホームへ，支援の工夫，社会福祉制度の現状
第 6 週	自閉症の子の子育て《DVD 視聴》 自閉症の子の生活の実際，育て憎さと支援の必要性，自閉症スペクトラム
第 7 週	自閉症の子の進路《DVD 視聴》 高機能自閉症，自閉症の多様な特徴
第 8 週	発達障がいの理解と支援 知的障がい，発達障がいについての定義と特性，支援の方法と保育者の関わり
第 9 週	発達障がいのある人の人間関係《DVD 視聴》 発達障がいや人間関係が苦手な人のためのソーシャルスキルトレーニング
第１０週	「関わりことば」Ⅰ・発達につまづきがある子どもの理解《DVD 視聴》 就学前児童の社会性を養う関わりことば，療育と支援の実際，社会生活力を育む方法
第１１週	「関わりことば」Ⅱ・発達につまづきがある人の理解《DVD 視聴》 就学前児童の社会性を養う関わりことば，生活支援，職場支援の実際
第１２週	支援ツールの種類と作り方《DVD 視聴》 場面に応じた支援ツールの種類と使い方，支援ツールの作成
第１３週	障がい児と読み聞かせ 『さっちゃんのまほうのて』の中の幼稚園
第１４週	発達障がいの子を持つ保護者《DVD 視聴》 障がいのある子どもをもつ母親への支援方法
第１５週	学習のまとめ 発達障がいについての知識の確認，障がいのある子どもへの対応，卒業後の実践活動

《学科教育科目》

科 目 名	教育実習				
担当者名	藤井　恵美子・黒崎 令子				
授業方法	実習	単位・必選	５・選	開講年次・開講期	２年・Ⅰ期分

《授業のねらい及び概要》
教育実習に必要な知識、実践技能を総合的に身につける。事前指導においては，実習において学ぶべきことを理解し、実習生として謙虚に意欲的に取り組むことを知る。更に、これまでの学習した関連科目の内容の総合的理解を図り，教育実習生として必要な心得や行動、幼児教育の実際に携わる素地を身につけるとともに，教師としての責務を理解する。事後指導においては，実習で学んだことを振り返り、保育者としての課題を明確にしながらより実践的な技能を身につけていく。

《授業の到達目標》
・指導計画の立案と計画に基づいた保育の在り方を理解し，実践力を身につける。
・保育実践に必要な教材の準備と教材研究を十分にする。

《テキスト》
「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）
「実習の手引き」（兵庫大学短期大学部）
「実習日誌の書き方」相馬和子・仲田カヨ子編（萌文書林）
「保育実技」久富陽子編（萌文書林）

《参考文献》
適宜授業中に紹介します。

《成績評価の方法》
実習園における評価（７０％）・授業中に課す提出物、発表内容及び期限厳守、授業態度（３０％）を総合的に評価する。

《授業時間外学習》
・テキストの指定箇所をあらかじめ熟読しておくようにしてください。
・授業では沢山の教材･教具を紹介します。各自、保育に活かせる教材･教具を計画的に収集してください。
・適宜課題を出します。その課題に取り組み，期日に提出するようにしてください。
・手遊び、歌､絵本などの教材集を作成します。それらの教材研究を計画的に進めておいてください。
・授業内容を再確認し､不明な点は次回の授業で質問したり調べたりするようにしてください。

《備考》
実習を受けるための資格条件を厳守し、積極的、意欲的に授業に参加すること。正当な理由のない欠席、遅刻、早退については厳重に注意する。実習内規及び要綱に従って実習参加の可否を決定する。その他、授業の妨害になることは厳重に対処する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	幼稚園参加指導実習について ・教育実習の心得　（１）目的と意義
第 ２ 週	幼稚園参加指導実習について ・教育実習の心得　（２）準備と心得　ＶＴＲ視聴
第 ３ 週	幼稚園教育課程･指導計画について（３歳児）
第 ４ 週	幼稚園教育課程･指導計画について（４歳児）
第 ５ 週	幼稚園教育課程･指導計画について（５歳児）
第 ６ 週	指導計画の作成について
第 ７ 週	指導計画の作成と実際
第 ８ 週	指導計画作成と実際
第 ９ 週	模擬保育①
第１０週	模擬保育②
第１１週	模擬保育③
第１２週	実習生の在り方について（マナー講座）
第１３週	実習ノートの書き方について（参加実習時）
第１４週	実習ノートの書き方について（部分実習時）
第１５週	実習ノートの書き方について（全日一日実習時）

《学科教育科目》

科 目 名	教育実習				
担当者名	藤井　恵美子・黒崎 令子				
授業方法	実習	単位・必選	５・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》
教育実習に必要な知識、実践技能を総合的に身につける。事前指導においては､実習生として謙虚に学び､学ぶべきことを理解する。また意欲を持って取り組めるようにする。さらに、これまでの学習した関連科目の内容の総合的理解を図り、教育実習生として必要な心得や行動、幼児教育の実際に携わる素地を身につけるとともに、保育者としての責務を理解する。事後指導においては実習を振り返り、学んだこと､自分自身の課題を明確にし､保育者としての資質向上に意欲を持つ。

《授業の到達目標》
・教育実習に必要な態度や行動、幼児指導や学級経営に携わる素地を身につける。
・保育実践を通して幼児への関わりや保育内容についての理解を深める。
・保育者としての立場を理解する。

《テキスト》
「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）
「実習の手引き」（兵庫大学短期大学部）
「実習日誌の書き方」相馬和子･仲田カヨ子編（萌文書林）
「保育実技」久富陽子編（萌文書林）

《参考文献》
適宜授業中に紹介します。

《成績評価の方法》
実習園における評価（７０％）・授業中に課す提出物、発表内容及び期限厳守（３０％）を
総合的に評価する。

《授業時間外学習》
・テキストの指定箇所をあらかじめ熟読しておくようにしてください。
・授業では沢山の教材･教具を紹介します。各自、保育に活かせる教材･教具を計画的に収集してください。
・適宜課題を出します。その課題に取り組み､期日に提出するようにしてください。
・手遊び、歌、絵本などの教材集を作成します。それらの教材研究を計画的に進めておいてください。
・授業内容を再確認し、不明な点は次回の授業で質問したり調べたりするようにしてください。

《備考》
実習を受けるための資格条件を厳守し、積極的、意欲的に授業に参加すること。正当な理由でない欠席、遅効、早退については厳重に注意する。実習内規及び要綱に従って実習参加の可否を決定する。その他、授業の妨害になることは厳重に対処する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	幼稚園参加指導実習直前指導
第 2 週	幼稚園参加指導実習直前指導
第 3 週	幼稚園参加指導実習における自己評価と反省 ・グループ討議 ・参加指導実習園へのお礼状
第 4 週	幼稚園参加指導実習における自己評価と反省 ・グループ発表 ・今後の課題
第 5 週	保育事例研究（1）
第 6 週	保育事例研究（2）
第 7 週	保育事例研究（3）
第 8 週	模擬保育のための指導計画の作成と教材研究
第 9 週	模擬保育のための指導計画の作成と教材研究
第１０週	模擬保育の展開と反省･評価（1）
第１１週	模擬保育の展開と反省･評価（2）
第１２週	模擬保育の展開と反省･評価（3）
第１３週	模擬保育の展開と反省･評価（4）
第１４週	模擬保育の展開と反省･評価（5）
第１５週	教育実習の２年間のまとめと今後の課題

《学科教育科目》

科 目 名	保育実習Ⅱ				
担当者名	徳永　満理・井本　澄子				
授業方法	実習	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・通年

《授業のねらい及び概要》
保育所見学観察実習で学んだ保育所の一日の流れ・子どもの姿・保育所の役割をさらに保育活動への参加を通して、保育所・保育士の役割について実践的に学ぶことを目的とする。（実習期間：6月２週間）
学内では、保育実習Ｉの実践、反省を通して、さらに保育について具体的に理解を深める。（実技、指導案等の作成）

《授業の到達目標》
保育所見学観察実習の反省をふまえ、保育活動に参加したり実践することにより、さらに保育士の仕事が学べる。又保育活動の一部を分担したり、研究保育をする事によって保育の計画を作れるようになる。
同じ保育所での実習により、子どもの発達を具体的に見ることができる。また、実習生の成長を見てもらい保育士になることへの方向性を持つことができる。

《テキスト》
『保育所保育指針』『保育所実習』（北大路書房）１年次購入済

《参考文献》
『保育資料集２０１１』森上史朗編（ミネルバァ　２０１１）
適宜、講義時に紹介する。

《成績評価の方法》
現場評価（８０％）、事前事後指導（２０％）で評価する。

《授業時間外学習》
保育所見学観察実習の時のノート・プリントをよく読んでおくこと。
実習を振り返り、反省と課題を書いておくこと。（実習者として・保育者として）
子どもの発達・統合保育等を復習しておくこと。
常に手遊び、絵本の読み聞かせ等を実践しておくこと。

《備考》
１．講義時は、いつも保育所での実習と考えて出席すること。服装、態度も実習に適したものであること。
２．欠席・遅刻はしないこと。やむを得ず欠席する場合は、必ず保育研究室に電話を入れ、後日補講を受けること。
３．掲示を見て行動すること。（ピロティと保育研究室横の両方）

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	施設実習反省会 保育所参加指導実習実施願回収 個人票回収
第 ２ 週	保育所参加指導実習の意義と手続き 見学観察実習の自己反省－実習課題（実習Ｉの成績）レポート
第 ３ 週	見学観察実習の反省と参加指導実習の心構え 私立保育園は連休までに挨拶に行く（オリエンテーション）
第 ４ 週	保育所ＶＴＲ 乳児保育（乳児の発達と保育）　統合保育
第 ５ 週	記録の書き方（実習ノート）Ｉ　指導計画（レポート） 公立保育所の実習先を順次発表（オリエンテーション）
第 ６ 週	記録の書き方（実習ノート）Ⅱ
第 ７ 週	指導計画、週、日案の作成について 細菌検査実施、細菌検査容器、書類の配布
第 ８ 週	研究保育の教材研究 実習保育所における実習計画に基づく
第 ９ 週	保育所参加指導実習　注意事項の確認 書類確認（実習費・領収書・評価表・出席表ほか）
第１０週	保育所参加指導実習反省会（グループ） 小グループによる反省会・討議
第１１週	保育所参加指導実習反省会（全体） グループ討議の発表
第１２週	保育所の歴史と課題（働く女性と保育所） 働く女性の現状
第１３週	保育所の歴史と課題（子育て支援） 子どもを取り巻く現状
第１４週	望ましい保育者像（Ｉ） 実習を通して理想とする保育者像を考える
第１５週	望ましい保育者像（Ⅱ） 現場の保育士の声を聞く

《学科教育科目》

科 目 名	教育心理学				
担当者名	松田　信樹				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
人は生まれてから実にたくさんのことを身につけて発達していきます。それを可能にするのが、広い意味での教育です。人の人としての発達を支える教育という営みについて心理学の観点から考えていきます。

《授業の到達目標》
教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習のメカニズムについて理解できるようになること。

《テキスト》
テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

《参考文献》
『やさしい教育心理学〔改訂版〕』　鎌原雅彦・竹綱誠一郎（著）　有斐閣　2005
『教育心理学［新版］　ベーシック現代心理学６』　子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司（著）有斐閣　2003
『よくわかる教育心理学』　中澤潤（編）　ミネルヴァ書房　2005

《成績評価の方法》
最終回に行う授業目標の到達度評価（テスト）100％

《授業時間外学習》
授業時間中に取り上げたテーマについて、参考文献などを読むことで理解を深めること。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	教育心理学＝発達と学習の心理学を学ぶ意義
第 2 週	人の発達を支える教育的環境
第 3 週	学習の基礎を理解する：学習のメカニズム　その１
第 4 週	学習の基礎を理解する：学習のメカニズム　その２
第 5 週	学習の基礎を理解する：学習のメカニズム　その３
第 6 週	学習を支える記憶のメカニズム
第 7 週	モチベーション（動機づけ）について
第 8 週	学びへのモチベーション：多様な動機に支えられた学びを目指して
第 9 週	モチベーションの低下について：無気力あるいは無力感の原因と対応を考える
第１０週	教授法と教育評価
第１１週	学級という集団を理解する：特に集団への同調について考える
第１２週	学級という集団を理解する：特に権威への服従について考える
第１３週	教師のメンタルヘルスについて：ストレスとバーンアウト
第１４週	教育という営みについてふりかえる
第１５週	まとめ：授業目標の到達度評価（テスト）

《学科教育科目》

科 目 名	青年心理学				
担当者名	森田　義宏				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
子どもから大人への過渡期にある青年のこころを、自己意識の発達や自己形成という観点から理解し、青年の自立と成長への支援とは何かを考える。

《授業の到達目標》
青年期の特異性や意味を学び、自己意識や自我の発達と成長の過程を追っていく。青年期を前期、中期、後期に３区分し、それぞれの時期特有の心理を理解し、さらに現代青年を取り巻く文化や時代が青年の人間発達に及ぼす影響を考える。

《テキスト》
使用しない

《参考文献》
授業中適宜紹介する

《成績評価の方法》
平常点 30%、筆記試験 70%

《授業時間外学習》
青年や若者の文化・ことば・ファッション、事件などについての記事を新聞、雑誌、web 上から探し、レポートする。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	＊オリエンテーション　＊青年心理学の目的と方法　＊青年心理を考える枠組み　＊青年期の課題
第 2 週	青年心理学の研究法
第 3 週	Ⅰ.青年期のはじまり　＊プレ思春期から青年期へ　　＊自我の目覚めと自律への欲求
第 4 週	＊揺れ動く青年の感情　　＊不安定と敏感
第 5 週	＊性のめざめ　　＊性と愛に向き合うということ
第 6 週	Ⅱ青年期の葛藤　　＊理想と現実の矛盾　　＊自己主張と反抗・異議申し立て
第 7 週	＊思考と感情の特徴　　＊感情の論理
第 8 週	Ⅲ.青年期後期の心理　　自我同一性の確立と形成　その１
第 9 週	＊自我同一性の確立と形成　その２　＊本当の自分探しとモラトリアム
第１０週	＊将来を考える　　＊生活設計の開始
第１１週	＊職業・キャリアを考える
第１２週	＊現代の青年の実像と社会問題　　ニート、フリーター、引きこもり
第１３週	＊青年の人間関係（仲間・家族）
第１４週	＊「大人になる」とは
第１５週	まとめ

《学科教育科目》

科 目 名	教育制度論				
担当者名	笹田　哲男				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
明治以降の日本教育制度史を、学校制度史を中心に学んだのち、現代日本の学校制度、教育行政制度等の課題について、検討を加えていく授業です。

《授業の到達目標》
１．近代以降の日本の教育制度史についての知識を獲得する。
２．現代日本の学校教育制度、教育行政制度などについての知識を獲得する。
３．現代日本の学校教育制度、教育行政制度などの課題について考える力を獲得する。

《テキスト》
『要説 教育制度[三訂版]』森秀夫（学芸図書）

《参考文献》
その都度、紹介します。

《成績評価の方法》
授業時間内に実施する筆記試験の結果で100%評価します。

《授業時間外学習》
教科書の指定箇所を読んでおくこと。

《備考》
「子どもの学習権」、「国家の教育への関わり方」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えています。積極的な受講を、期待しています。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	教育制度、公教育の歴史類型、学校制度について
第 2 週	日本教育制度史（1）明治期 ＶＴＲ使用
第 3 週	日本教育制度史（2）大正期、昭和期 ＶＴＲ使用
第 4 週	現代日本の教育制度（1）保育制度 ＶＴＲ使用
第 5 週	現代日本の教育制度（2）初等教育制度 ＶＴＲ使用
第 6 週	現代日本の教育制度（3）中等教育制度
第 7 週	現代日本の教育制度（4）高等教育制度
第 8 週	現代日本の教育制度（5）社会教育制度
第 9 週	現代日本の教育制度（6）その他（教員養成制度等） ＶＴＲ使用
第１０週	海外主要国の学校制度 ＶＴＲ使用
第１１週	教育制度と「教育法の体系」 ＶＴＲ使用
第１２週	教育行財政のしくみと教育法
第１３週	学校、教職員と教育法（1）
第１４週	学校、教職員と教育法（2）
第１５週	まとめ

《学科教育科目》

科 目 名	教師論				
担当者名	藤井　恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	２・必	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
- 学生が目指す保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。
- 保育に関する知識を深め、１年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質　　の向上を図る。
- 学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用する。
- 模擬保育を行い、自らの望ましい保育者像を構想する。

《授業の到達目標》
- 教職の意義と保育者の役割を理解することができる。
- 教職（保育）に対する自らの適性を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。

《テキスト》
「保育者論」　榎沢良彦･上垣内伸子　編著　（同文書院）

《参考文献》
『幼稚園教育要領・保育所保育指針』
『新しい時代の幼児教育』　小田豊・榎沢良彦　編　（有斐閣）
『フレーベル全集第二巻・人の教育』フレーベル　（玉川大学出版部）
『倉橋惣三「保育法」講義録』菊池ふじの監修　（フレーベル館）
『保育者の地平』津守　真著　（ミネルヴァ書房）その他授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》
筆記テスト５０％、レポート３０％、授業態度２０％

《授業時間外学習》
- 次回の授業範囲を予習しておいてください。特に、教科書をよく読んでおいてください。
- 適宜課題を出しますので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめてきてください。
- 授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめておいてください。

《備考》
- 幼稚園・保育所などに関する情報（特に教職に関すること）を常に意識して、収集しておいてください。
- 教科書は必ず持参してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の進め方・評価方法などのガイダンス　現時点で考え、目指す保育者像
第 2 週	教職の意義　　保育するということ
第 3 週	保育の歴史と教師像①　諸外国にみる保育
第 4 週	保育の歴史と教師像②　日本にみる保育
第 5 週	保育者の専門性①　　幼稚園における保育者の役割
第 6 週	保育者の専門性②　　保育者の実践活動
第 7 週	保育者の専門性③　　保育所における保育者の役割
第 8 週	保育者の専門性④　　保育士の実践活動
第 9 週	法と保育者①　　保育者の職務
第１０週	法と保育者②　　保育者の研修
第１１週	保育者への学習課題①　討議「保育者のイメージと自己認識」
第１２週	保育者への学習課題②　討議「保育者の専門職性」
第１３週	保育者への学習課題③　討議「保育者の資質」
第１４週	今、保育者に求められるもの
第１５週	全体のまとめ

《学科教育科目》

科 目 名	保育内容・健康				
担当者名	米田　妙子				
授業方法	演習	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
「健康」の領域は、日々の保育の大半を占め、子どもの生活そのものといえる。そのため、乳幼児期における心身の健康に関する内容を十分に理解し、指導のあり方を考えていきたい。

《授業の到達目標》
・　領域「健康」に示された「ねらい」「内容」を理解し、健康指導のあり方を認識する。
　・乳幼児の心身の発育・発達について、基礎的知識を身につける。
　・子どもの健康をめぐる問題に目を向け、その支援の方法を探る。
　・乳幼児の遊びの発達を知り、小型遊具を作製する。
　・乳幼児の命を守るため、安全指導の重要性を知り、指導法を身につける。

《テキスト》
『保育内容・健康』近藤充夫編著（建帛社）
『保育所保育指針』
『幼稚園教育要領』
《参考文献》
必要に応じ、印刷物を配布する。

《成績評価の方法》
筆記試験（60%）・提出物（20%）・授業態度（20%）で評価する。

《授業時間外学習》
・教科書、資料等の指定箇所を読んでおくこと。
・子どもに関するニュース・記事、「健康」に関するニュース・記事等をノートに記録しておくこと。
《備考》
・授業中の私語、携帯電話、飲食は厳禁。
・提出物は期限厳守。
・製作用具は各自必ず用意すること。
・正当な理由のない欠席・遅刻・早退についてはチェックする。
《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション ・講義の概要　・授業のすすめ方　・履修上の諸注意 ・「健康」の定義
第 2 週	領域「健康」の「ねらい」・「内容」について ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領
第 3 週	子どものからだと健康 ①体格と生理機能の発達
第 4 週	②運動能力の発達
第 5 週	③生活習慣の形成 食事・睡眠・排泄・着脱・清潔
第 6 週	子どもの心と健康 ①母子相互作用の重要性
第 7 週	②情緒の発達と運動 ③社会性の発達と運動
第 8 週	④パーソナリティの発達と運動 ⑤知的能力の発達と運動
第 9 週	⑥子どもの健康をめぐる問題 ⑦食育について
第１０週	乳幼児の遊びの発達と健康 ①いろいろな遊具の遊び（素材・大型遊具・小型遊具等）
第１１週	②小型遊具作製
第１２週	③小型遊具の完成および作品発表
第１３週	安全の指導 ①安全教育のねらい ②安全の指導
第１４週	③安全管理
第１５週	まとめ・理解度の確認

《学科教育科目》

科 目 名	保育内容・環境				
担当者名	谷内　繁子				
授業方法	演習	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
保育においての「環境」とは、日常的に用いられる自然環境だけでなく、ある事物が幼児の遊びや学びにどのような意味をもち、幼児がそれらを体験することにより、何に気付き経験していくのかという視点から、人とモノ、人と人とのつながりの観点での幅広い領域を意味する。そのなかで幼児が環境とどのようにかかわっているのか具体的な経験として蓄積されていくためには、どのような環境構成や援助が求められているのかなど、具体的に考えていく実践力を身につける。

《授業の到達目標》
○保育所保育指針、幼稚園教育要領「環境」に示された「幼児教育（保育）の基本」「ねらい」等を理解する。
○演習を通して、どのような環境構成や援助が求められているのか保育者の役割と援助を理解する。
○身近な環境に積極的に触れ、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

《テキスト》
『保育所保育指針解説書』文部科学省、フレーベル館、2008
『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2008

《参考文献》
『演習保育内容環境』紫崎正行編著（建帛社）、2009
『新子どもと環境』（理論編）奥井智久編著（三晃書房）、2008
『身近な環境を生かすあそび』八並勝正著（チャイルド社）、1992

《成績評価の方法》
○筆記テスト 60%
○授業や演習への参加意欲と態度 20%
○レポート課題等への提出物 20%

《授業時間外学習》
○予習の方法
　テキストの指定箇所を読んできてください。また、適宜課題を出すので、その課題をやってきてください。
○復習の方法
　授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりしてください。

《備考》
○授業に関する資料と演習課題は授業時に指示します。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	保育の基本と保育内容「環境」：環境をとおして行う保育、保育内容の構造と「領域」
第 2 週	子どもと環境のかかわり（1）：身近な環境の捉え方、身近な自然・生き物とのかかわり
第 3 週	子どもと環境のかかわり（2）：物とのかかわり、文字や記号とのかかわり、数量とのかかわり
第 4 週	子どもと環境のかかわり（3）：情報や施設とのかかわり、園内外行事とのかかわり
第 5 週	園庭の自然や遊具とのかかわり：多様なかかわりを保障、遊びが発展するような保育者の役割と援助 演習「子どもの遊びを援助するため、園児役、保護者役に分かれてロールプレイ」
第 6 週	室内の遊具・教材・設備とのかかわり：遊びやすい空間づくり、使いこなせる環境づくり
第 7 週	飼育・栽培・園外保育：飼育活動、栽培活動、園外保育 演習「子どもが育てやすいような栽培物（花・野菜等）を調べ、年間スケジュールを立案」
第 8 週	領域「環境」と指導計画：領域の考え方、生活と計画
第 9 週	領域「環境」と保育方法：一日の生活時間の構造、自発的活動時間と領域「環境」、設定及び保育者の意図が強い遊びや活動と生活のなかでの配慮
第１０週	領域「環境」と保育の実際（1）：身の回りの生活環境における配慮
第１１週	領域「環境」と保育の実際（2）：思考力の芽生え、好奇心・探究心をもつ
第１２週	領域「環境」と保育の実際（3）：道徳性をはぐくむ保育環境
第１３週	乳幼児期の安全環境：防災教育の基本、心身の発達と安全能力の形成、安全能力を培う保育、安全環境
第１４週	領域「環境」の変遷：幼稚園創設～戦時下の保育内容、戦後～今日の保育内容
第１５週	まとめ：保育内容の総合性、魅力ある保育環境づくり、地域資源の活用 演習「自身の思い出深い環境から、その体験のもつ意味を探ってみる」 筆記テスト

《学科教育科目》

科 目 名	保育内容・表現Ⅰ				
担当者名	井上　眞美子				
授業方法	演習	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
身体と心の感性を育てる。

《授業の到達目標》
自分の身体を知ること。「動きの世界」「音の世界」から何かを感じて、身体の諸感覚を目覚めさせる。
音楽と基本ステップの実技研修から、幼児期の年齢別にふさわしい指導方法を主体的に考えていく。

《テキスト》
『表現』幼児音楽①②　小林美実監修（保育出版社）

《参考文献》
『手あそび 指あそび』吉本澄子著（玉川大学出版部）
『ドラマによる表現教育』ブライアン ウェイ著（玉川出版部）

《成績評価の方法》
毎回の授業毎の評価（30%）、実技テスト（70%）の割合で評価する。授業回数の 1/3 を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》
・テキストの指定箇所を読んでおくこと。
・ステップに関する専門用語の意味等を理解し、ノートに整理しておくこと。
・毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》
・自分がイメージしたことが身体で表現できるように日常生活で五感を研ぎ澄ましておく。
・服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。
・授業中の携帯電話は使用厳禁とする。
・リズムシューズを使用する。集団あそびは屋外のシューズを使用する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	表現についての概要の説明 手あそび
第 2 週	身体の諸感覚を感じるあそび（基本運動と動きのリズム） 各国の幼児のフォークダンスを体得する
第 3 週	基本ステップを中心に、クリエイティブムーブメント。世界のフォークダンス
第 4 週	基本ステップを中心に、クリエイティブムーブメント。世界のフォークダンス
第 5 週	基本ステップを中心に、クリエイティブムーブメント。世界のフォークダンス
第 6 週	基本ステップのテスト
第 7 週	模倣あそび・幼児体操
第 8 週	動きの質のテーマ（緊張と解緊）
第 9 週	ことばとリズムあそび・わらべうたあそび
第１０週	身近な道具のリズムあそび
第１１週	身近な道具のリズムあそび
第１２週	野外における集団あそび(わらべうたあそび･ゲーム)
第１３週	関係のテーマ（仲間と共同して作品を創る）
第１４週	関係のテーマ（仲間と共同して作品を創る）
第１５週	作品発表会

《学科教育科目》

科 目 名	養護内容				
担当者名	藤本　政則				
授業方法	演習	単位・必選	１・選	開講年次・開講期	２年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。

《授業の到達目標》

１．社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について学ぶ。
２．施設養護や里親養育等の社会的養護の実際について学ぶ。
３．個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援、親子関係の調整等の内容について学ぶ。
４．社会的養護に関わるソーシャルワークの方法と技術について理解する。
５．社会的養護を通じて、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。

《テキスト》

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考文献》

『改訂３版・保育士養成講座 第８巻 養護原理』新・保育士養成講座編纂委員会編（全国協議会社会福祉　2007）

《成績評価の方法》

下の２方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「１」が４割、「２」が６割とする。
１．授業態度、授業レポート、保育士資格取得に対する意欲等の評価。
２．筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価。）

《授業時間外学習》

・毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
・授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《備考》

・各講義の開始時に出欠の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
・授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	児童の権利擁護
第 ２ 週	保育士等の倫理及び責務
第 ３ 週	施設養護の特性及び実際
第 ４ 週	里親養育の特性及び実際
第 ５ 週	児童の個別支援計画の作成の実際
第 ６ 週	日常生活支援の理論と実際　①
第 ７ 週	日常生活支援の理論と実際　②
第 ８ 週	治療的支援の理論と実際　①
第 ９ 週	治療的支援の理論と実際　②
第１０週	自立支援の理論と実際
第１１週	親子関係調整の理論と実際
第１２週	保育士としてのケアワークの理論と実際
第１３週	施設養護におけるソーシャルワークの理論と実際
第１４週	児童家庭福祉の現状と今後の社会的養護
第１５週	今後の社会的養護の方向と課題

《学科教育科目》

科 目 名	乳児保育Ⅱ				
担当者名	鈴木　富美子				
授業方法	演習	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
１、乳児保育Ⅰで学んだ理論、知識を基礎に乳児の発達過程を振り返り確認学習をする。
２、保育園（所）、乳児院における保育内容を学び、ベビー人形を用い援助技術の実践を学ぶ。
３、乳児への直接的援助と間接援助を学ぶため、様々な保育ニーズの模擬ケース検討を重ね、幅広い援助技術の学習をする。

《授業の到達目標》
・0,1,2 歳児の発達を理解し、適切な援助活動を実践することができる。
・模擬カンファレンスやグループ討議から多様な保育ニーズを理解し、多面的な保育の取り組みについて説明することができる。
・製作を通し、工夫や改善の力を身につけ、年齢にふさわしい遊具を作ることができる。

《テキスト》
「乳児の保育新時代」ひとなる書房
必要に応じプリント配布

《参考文献》
「保育所保育指針」
「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい
「乳児保育Ⅰ」金子保著　クオリティケア
「子どもへのまなざし」佐々木正美著　福音館
「すくすくハンドブック」神戸市保健福祉局

《成績評価の方法》
課題提出(レポート・作品など）（８５％）授業態度(１５％)

《授業時間外学習》
教科書の指定範囲を読んでおく。
配布したプリントは必ず読み、課題レポートを提出する。
指定した用語や課題を調べてくる。
紹介した遊びは復習し、メロディや振り付けを覚えてくる。
製作物は必ず完成させ、作品の掲示を行う。

《備考》
授業中の携帯電話の使用や飲食は禁止する。
授業中の私語は慎むこと。
正当な理由のない欠席や遅刻は厳重にチェックする。
製作その他実技を取り入れるので、第１週で指定した道具は毎回持参すること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション ・授業の概要・授業の進め方・履修上の諸注意 ・乳児保育の意義と現状
第 2 週	０，１，２歳児の発達と保育 ・発達の特徴の理解(子どもの能動性、環境との相互作用、ベビーサインなど) ・保育氏の役割(愛着関係の樹立の意味、保育マインドとは)・製作―１本指人形
第 3 週	０，１，２歳児の保育援助(ベビー人形使用) ・養護について(保育指針から読み取る用語の理解)　・製作―乳児用けん玉 ・具体的援助内容(抱き方・哺乳・おむつ交換・こどばかけ、健康・安全など全般)
第 4 週	０，１，２歳児の保育援助(ベビー人形使用) ・教育について(領域視点からみる乳児の教育) ・製作―いないいないバー人形
第 5 週	０，１，２歳児の保育援助(ベビー人形使用) ・遊びについて(遊びの目的、発達との関係) ・具体的乳児の遊び―ふれあい遊び、手遊び、目遊び、ベビーマッサージ ・製作―いないいないバー人形
第 6 週	事例検討で多様な保育ニーズを探る(ベビー人形使用) ・様々な家庭環境、養育状況を想定し、グループ討議の中で問題解決の方向を探る (ケース検討会、チームワーク、関連機関連携を学ぶ) ・製作―小さな抱き人形
第 7 週	グループ討議発表と意見交換 ケース検討まとめ・発表・意見交換を通し、チームによる多面的な保育方法の実践を学ぶ。 ・製作―小さな抱き人形
第 8 週	乳児保育の環境 ・安全な保育環境づくり―ハザードマップ作成― 乳児の特性と安全　・製作―びっくり手品箱
第 9 週	保育計画 ・保育計画(保育課程とは) ・乳児クラスの指導計画立案　・製作―自然素材から作る手編み機
第１０週	保育計画 ・指導計画の評価 ・園便りの目的と作成（家庭との連携）　・製作―手編み機で子どものマフラー作り
第１１週	行事と保育 ・伝承行事と子どもの関わり(一年を通して) ・楽しい体験と心の発達のかかわり ークリスマスの多面的取り組み―　・製作―クリスマスカード
第１２週	行事と保育 ・想像力や夢を育てる保育 ークリスマスの多面的取り組み―　・製作―リース作り
第１３週	行事と保育 ・心に残るイベントの展開 -クリスマスの多面的取り組み―　・製作―プレゼント作り
第１４週	進級に向けての取り組み ・０歳児～５歳児の連続的発達を見据えた保育の連携について ・冬の遊びと健康　・製作―カルタ
第１５週	学習の振り返りとまとめ ・課題レポート作成

《学科教育科目》

科 目 名	教育相談				
担当者名	大久保　恵				
授業方法	講義	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
1. 教育相談、カウンセリングの理論、基礎知識を身につける。
2. 描画など心理検査などを体験して自己理解を深める。
3. 教育現場での実際を通して、実践的な力を養う。

《授業の到達目標》
教育相談の基礎的な考え方を習得し、子どもの問題行動への理解を深め、その対応法を学んでいく。

《テキスト》
「エッセンス　学校教育相談心理学」石川正一郎・藤井泰編著（北大路書房）

《参考文献》
「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著（三省堂）

《成績評価の方法》
平常点（20%）、提出物（20%）、テスト（60%）
※授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上になった者には単位を与えることができません。

《授業時間外学習》
・教科書の指定箇所を読んでおくこと。
・授業中に配布するプリントを整理し、よく読んでおくこと。
・実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。

《備考》
講義の開始時に出席を確認します。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	教育相談と自己理解
第 ２ 週	教育相談の実際１
第 ３ 週	教育相談の実際２
第 ４ 週	パーソナリティとその理解１
第 ５ 週	パーソナリティとその理解２
第 ６ 週	発達と教育相談
第 ７ 週	発達障害と教育相談
第 ８ 週	カウンセリングとは
第 ９ 週	カウンセリング体験
第１０週	主な心理療法と心理検査
第１１週	描画体験とその理解
第１２週	関係機関との連携・協働
第１３週	ケーススタディ（幼児期）
第１４週	ケーススタディ（児童期・思春期）
第１５週	学習のまとめ

《学科教育科目》

科 目 名	保育・教職実践演習(幼稚園)				
担当者名	笹田 哲男・宮川 和三・井上 眞美子・杣山 貴要江・中川 智章・小泉 毅・福田 規秀・三浦 摩美・藤井 惠美子・松田 信樹 ・三井 圭子				
授業方法	演習	単位・必選	２・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
教育委員会や幼稚園等から講師を招いての講義に関連した事例研究やグループ討論、また、模擬保育等を通して、教員（保育者）として必要な知識技能を修得したことの確認を行う。

《授業の到達目標》
教職課程の科目の履修により修得した知識・技能をもとに、教員（保育者）としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち、また、社会性や対人関係能力を身につけ、幼児理解を深めながら保育内容の指導力を向上させ、教員（保育者）の職務を支障なく実践できる資質能力を獲得する。

《テキスト》
「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)

《参考文献》
適宜紹介する。

《成績評価の方法》
課題(討議レポート、指導案等)50%、発表(討論での意見、模擬保育等)50%

《授業時間外学習》
課題のそったレポート、指導案の作成。発表(討論での意見、模擬保育等)の準備。

《備考》
幼稚園教諭免許、保育士資格を取得するための「総仕上げの授業」と心得て、積極的に学修することが望まれる。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（建学の精神と保育科教育目的の再確認を含む）
第 2 週	教職の意義や教員の役割、職務内容についての講義（教育委員会からの講師）
第 3 週	第２週の講義内容に関する事例研究、グループ討論
第 4 週	社会性、対人関係能力についての講義（幼稚園等からの講師）
第 5 週	第４週の講義内容に関する事例研究、グループ討論
第 6 週	幼児理解についての講義（幼稚園等からの講師）
第 7 週	第６週の講義内容に関する事例研究、グループ討論
第 8 週	保育内容の指導力についての講義（幼稚園等からの講師）
第 9 週	第８週の講義内容に関する事例研究、グループ討論
第１０週	模擬保育１
第１１週	模擬保育２
第１２週	模擬保育３
第１３週	模擬保育４
第１４週	模擬保育についての全体講評
第１５週	学修のまとめ